

令和7年度

専攻科学習の手引

令和7年4月



独立行政法人 国立高等専門学校機構
舞鶴工業高等専門学校

舞鶴工業高等専門学校

〈教育理念〉

広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力、創造力を有し、地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな実践的開発型技術者を育成する。

〈専攻科の目的〉

（専攻科課程の目的）

専攻科課程は、高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。

（専攻科教育の目的）

本校専攻科は、高等専門学校準学士課程における5年間にわたる一貫した実践教育の特徴を生かしながら、更に2年間の課程において、高度の学問と技術を追求し、創造性・人間性豊かで、より独創的技術開発能力を兼ね備えた中核的技術者の育成を目的とする。

各コースの教育目的は次のとおりとする。

（1）電気電子システム工学コース

高等専門学校準学士課程等で修得した基礎学力と専門知識に基づき、電気電子工学およびその周辺分野に関わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者を育成することを目的とする。

（2）機械制御システム工学コース

高等専門学校準学士課程等で修得した基礎学力と専門知識に基づき、機械工学およびその周辺分野に関わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者を育成することを目的とする。

（3）建設工学コース

高等専門学校準学士課程等で修得した基礎学力と専門知識に基づき、土木工学、建築学およびその周辺分野に関わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者を育成することを目的とする。

〈育成する人材像〉

（準学士課程）

1. 専門分野の知識を修得し実践力を備えた技術者
2. 社会の変化やニーズに対応した製品やシステムを創造できる技術者
3. 豊かな人間性と国際性を備えた技術者

（専攻科修了者像）

1. 実践的な技術者として、幅広い工学の基礎と深い専門領域の学識を修得し、これらをエンジニアリングの実務と技術革新に活用できる。
2. 多面的な思考力を有する技術者として、異分野の専門知識を融合し、複合的な技術問題に取り組むことのできる基礎能力を身につける。
3. 技術開発力のある技術者として、課題の発見とその解決に取り組む探究能力、粘り強いチャレンジ精神と独創力を身につける。
4. 21世紀の地球人として、多面的な視点から社会の様々な問題に関心をもち、そのあり方を問うことのできる素養と国際感覚を身につける。
5. 職業人として、人間性豊かな調和のとれた思考力と、それに基づく実行力を備え、自ら考え行動できる。

〈教育方針〉

- I 実験・実習，演習，ものづくりを重視する
- II 基礎に立ち返って考えさせる
- III 自ら学ぼうとする意欲を育てる
- IV 豊かな教養と国際性を育む

(専攻科課程)

ディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）

本校専攻科の目的・専攻科修了者像に基づき、自らが継続的に学習することで、以下の目標を達成し、修了の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に修了を認定します。

■ 電気電子システム工学コース

- (i) 高度な数学の知識と幅広い工学の基礎知識を修得し、専門分野に応用することができる。
- (ii) 電気電子工学分野の深い学識を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。
- (iii) 電気電子工学分野の応用的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をエンジニアリングの実務に活用できる。
- (iv) 修得した人文・社会科学の知識により広い視野と国際感覚を持ち、技術者として倫理的に行動することができる。
- (v) 技術者としての実践力、協働力を身につけ、地域、社会等の課題の発見と解決に対して、修得した知識・技術を融合して創造的に取り組むことができる。また、その成果を発表することができる。

■ 機械制御システム工学コース

- (i) 高度な数学の知識と幅広い工学の基礎知識を修得し、専門分野に応用することができる。
- (ii) 機械工学分野の深い学識を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。
- (iii) 機械工学分野の応用的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をエンジニアリングの実務に活用できる。
- (iv) 修得した人文・社会科学の知識により広い視野と国際感覚を持ち、技術者として倫理的に行動することができる。
- (v) 技術者としての実践力、協働力を身につけ、地域、社会等の課題の発見と解決に対して、修得した知識・技術を融合して創造的に取り組むことができる。また、その成果を発表することができる。

■ 建設工学コース

- (i) 高度な数学の知識と幅広い工学の基礎知識を修得し、専門分野に応用することができる。
- (ii) 土木工学および建築学分野の深い学識を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。
- (iii) 土木工学および建築学分野の応用的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をエンジニアリングの実務に活用できる。
- (iv) 修得した人文・社会科学の知識により広い視野と国際感覚を持ち、技術者として倫理的に行動することができる。
- (v) 技術者としての実践力、協働力を身につけ、地域、社会等の課題の発見と解決に対して、修得した知識・技術を融合して創造的に取り組むことができる。また、その成果を発表することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、一般科目群および融合複合領域に対応したコース共通の科目群と、高度な専門分野に対応したコース別の科目群を開設します。具体的には、ディプロマ・ポリシーと対応させて以下のように教育課程を編成します。

(1) 一般科目

1. 技術者として広い視野を身につけるための科目を開設します。
2. 技術者としての国際感覚を身につけるための科目を開設します。

(2) 専門共通科目

1. 高度な数学の知識を修得する科目を開設します。
2. 異なる専門分野を含めた幅広い工学の基礎知識を修得する科目を開設します。
3. 技術者としての倫理を学ぶ科目を開設します。
4. 地域、社会等の課題の発見と解決に他者と協働して取り組む力を身につけるための科目を開設します。

(3) 専門コース科目

■ 電気電子システム工学コース

1. 電気電子工学分野の深い学識を修得する科目を開設します。
2. 電気電子工学分野の応用的な実験を学ぶ科目を開設します。
3. 修得した実践技術をエンジニアリングの実践に活用することを学ぶ科目を開設します。
4. 技術者として地域、社会等の課題の発見と解決に取り組む実践力、修得した知識・技術を融合して創造する能力、さらにそれらの成果を発表する能力を身につけるための科目を開設します。

■ 機械制御システム工学コース

1. 機械工学分野の深い学識を修得する科目を開設します。
2. 機械工学分野の応用的な実験を学ぶ科目を開設します。
3. 修得した実践技術をエンジニアリングの実践に活用することを学ぶ科目を開設します。
4. 技術者として地域、社会等の課題の発見と解決に取り組む実践力、修得した知識・技術を融合して創造する能力、さらにそれらの成果を発表する能力を身につけるための科目を開設します。

■ 建設工学コース

1. 土木工学および建築学分野の深い学識を修得する科目を開設します。
2. 土木工学および建築学分野の応用的な実験を学ぶ科目を開設します。
3. 修得した実践技術をエンジニアリングの実践に活用することを学ぶ科目を開設します。
4. 技術者として地域、社会等の課題の発見と解決に取り組む実践力、修得した知識・技術を融合して創造する能力、さらにそれらの成果を発表する能力を身につけるための科目を開設します。

評価方法と評価基準は、以下に示すとおりです。

- (1) 講義科目においては、科目ごとに到達目標を設定し、平常の取り組み（演習、宿題、レポートなど）と定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価します。到達度と評価基準は以下の表のとおりです。

到達度と評価基準

評価	到達目標に対する 到達度 (%)	内容	合否
A+	90～100	期待した能力が優れて身についている。	合格
A	80～89	期待した能力が十分身についている。	
B	70～79	期待した能力が身についている。	
C	60～69	期待した能力が概ね身についている。	
F	60%未満	期待した能力が身についていない。	不合格

- (2) 実技・実験・実習・演習などの実践科目においては、課題の取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価します。
- (3) 特別研究基礎および特別研究においては、研究成果、研究発表、質疑応答、取り組み姿勢、論文（特別研究基礎においては報告書）などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価し、60%以上の到達度をもって合格とします。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

専攻科では、優れた資質の技術者を養成するため、次のような入学者を期待しています。

- (1) 技術社会の中核を担う者として、社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人
- (2) 専攻科生としての自覚と確かな目標をもち、自主的に学習・研究する意欲が高く、十分な基礎学力を身につけている人
- (3) コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり、自己の考えを適切に表現することができる人
- (4) しっかりとした社会性と倫理観をもち、そして自ら考え、適切に行動できる人
また、各コースの求める適性を有する人は以下のとおりです。

■ 電気電子システム工学コース

1. 電気電子工学分野に係わる基礎知識を有する人
2. 電気電子工学の知識を高め、その分野で活躍したいという意欲のある人

■ 機械制御システム工学コース

1. 機械工学分野に係わる基礎知識を有する人
2. 機械工学の知識を高め、その分野で活躍したいという意欲のある人

■ 建設工学コース

1. 土木工学または建築学分野に係わる基礎知識を有する人
2. 土木工学および建築学の知識を高め、その分野で活躍したいという意欲のある人

専攻科では、上記の人の入学が実現できるよう次の基本方針で入学者選抜を行います。

〈推薦特別選抜〉

高等専門学校を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等専門学校長の推薦を受けた入学意志が強固な者に対して、調査書および面接の結果を総合的に評価し、選抜します。

〈一般学力検査選抜（A方式）〉

高等専門学校を卒業した者（卒業見込みの者を含む）等で、入学意志が強固な者に対して、調査書、面接、学力検査、および英語能力検査の結果を総合的に評価し、選抜します。

〈一般学力検査選抜（B方式）〉

高等専門学校を卒業した者（卒業見込みの者を含む）等に対して、調査書、面接、学力検査、および英語能力検査の結果を総合的に評価し、選抜します。

〈社会人特別選抜〉

高等専門学校を卒業し、企業等での勤務経験のある者に対して、調査書、面接（口頭試問を含む）、英語能力検査、および小論文の結果を総合的に評価し、選抜します。

1. 専攻科における履修について

1-1 概説

高専では、5年間の一貫教育により多くの実践的技術者を育成し、広く産業界に貢献してきました。しかし、近年の科学技術の高度化・情報化・国際化の進展に伴い、より深い専門的知識と幅広い視野を持った技術者の育成も望まれるようになりました。本校専攻科では、5年間にわたる一貫した実践教育の特徴を生かしながら、さらに2年間の課程において、高度の学問と技術を追求し、大学と同等レベルの工学に関する専門的知識と技術を教授し、創造性・人間性豊かで、より独創的技術開発能力を兼ね備えた中核的技術者を育成することを目的としています。

1-2 授業科目の単位と時間数

専攻科の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わります。学年を分けて、前期と後期の2学期制です。また、修業年限は2年（最長4年を限度）としています。

専攻科のカリキュラムは、一般科目及び専門科目（専門共通科目、専門コース科目）により構成されています。各授業科目の履修は単位制で、講義、演習、実験、実習などによって構成されます。専攻科において開設される各コース別の授業科目名・単位数及び内容は別紙教育課程表に記載されているとおりです。

専攻科における各授業科目の1単位とは、その科目の教室内及び教室外を合わせて45時間の学修内容のことをいいます。具体的には次のように算定します。例えば講義科目では15時間の授業と予習・復習など30時間の授業時間外学習を加えて45時間となります。

したがって、

- ・講義は、週1回、2時間の授業を15週受講すれば2単位
- ・演習は、週1回、4時間の演習を15週行えば2単位
- ・実験及び実習は、週1回、6時間の実験を15週行えば2単位

となります。このように単位の算定の仕方が科目によって異なりますので、注意が必要です。

1-3 履修方法

(1) 専攻科を修了するために、62単位以上の単位を修得する必要があります。令和3年度以降の入学者は、電気電子システム工学コース及び機械制御システム工学コースでは74単位、建設工学コースでは76単位の授業科目を開設しています。3コースとも、専門科目34単位と一般科目の2単位の合計36単位が、必修科目で、その他の全ての科目が選択科目です。なお、一般科目にあっては、1年に4単位、2年に2単位以上修得することが望ましいです。また、必修科目はどのコースにおいても必ず履修し、単位を修得しなければなりません。各コースの授業科目の学年ごとの配当単位数を9項以降に掲げています。

(2) 選択科目では、どの科目の単位を修得すれば良いかを決定しなければなりません。その選択に当たっては、コース長、特別研究及び特別研究基礎の担当教員等が相談に

当たります。

- (3) 受講科目は「履修届」によって登録します。「履修届」は、学生課教務係で配布されます。必修科目については全員履修・登録をしてください。なお、「履修届」については、前期科目は4月末日、後期科目は10月末日までに受講科目を記入し、学生課教務係に提出してください。
- (4) 特別研究基礎や特別研究については、その内容を単に論文としてまとめるだけでなく、学内発表会で発表する必要があります。また、研究発表の経験を積むためにも関係する学会及び研究会等において、口頭発表等をしておくことが望まれます。そのためには担当教員と密接な連絡をとり、研究を計画的に実施していく必要があります。
- (5) 大学改革支援・学位授与機構の学位申請に関して、修得すべき単位に十分注意しなければなりません。申請する専攻の区分で必要な科目を考慮し、コース長と十分に相談の上、履修科目の選択を行ってください。

1-4 試験と単位の認定

- (1) 授業科目の講義などの実施及び成績の評価は、授業科目担当教員が行います。
- (2) 定期試験は原則として各学期末に設定される一定期間の試験期間内に実施されます。授業科目によっては、レポート等をもって試験に替えることがあります。
- (3) 欠席時間数がその授業科目における出席すべき総時間数の1/3を超える場合、当該科目の評点は59点以下とします。
- (4) 評点が60点以上の科目については、所定の単位が認定されます。
- (5) 病気等やむを得ない事情で定期試験を受験できなかった場合、「追試験実施願」を提出することにより、追試験が実施されます。詳細は「舞鶴工業高等専門学校専攻科の単位の修得に関する規程の内規（専攻科課程における追試験）」を参照してください。
- (6) 単位が認定されなかった過年度の授業科目は、「再履修願」を提出することにより、次年度に再履修することができます。また、所定の要件を満たしていれば、「再試験実施願」を提出することにより、過年度科目や修了年度前期科目の再試験を実施します。詳細は「舞鶴工業高等専門学校専攻科の単位の修得に関する規程の内規（専攻科課程における再試験）」を参照してください。

「再試験実施願」の提出期限

過年度科目	修了年度前期科目
4月末日	10月末日

- (7) 修了年度の学年末において、修了に必要な単位数、又は学士の学位授与申請に必要な単位数が不足する場合等は、「再試験実施願」を後期定期試験終了後、専攻科委員会が指定する日までに提出することにより、所定の要件を満たしていれば、6単位を上限として再試験を実施することがあります。詳細は「舞鶴工業高等専門学校専攻科の単位の修得に関する規程の内規（専攻科課程における再試験）」を参照してください。

い。

(8) 他大学等（放送大学含む）での修得単位については、10単位を限度として専攻科での修得単位として認定されます。

1-5 成績の評価

成績は、授業科目ごとに、定期試験の成績や提出課題等を総合的に評価し、A+（評点100～90）、A（評点89～80）、B（評点79～70）、C（評点69～60）及びF（評点59以下）と評定し、評定がA+、A、B及びCの授業科目について、単位の修得を認定します。成績は、各学期の試験終了後、学生課教務係からコース長を經由して学生に通知されます。

ただし、特別研究基礎と特別研究については、指導教員を含めた複数の担当教員によって評価が行われます。特別研究基礎と特別研究は、専攻科を特徴づける主要な学習活動の一つです。担当教員の指導を受けながら、自主的に研究に取り組んで成果を上げるように努力してください。

1-6 専攻科の修了

専攻科の修了要件は、以下のとおりです。

- ・専攻科に2年以上在学している。ただし、4年を限度とする。
- ・下表のように開設されている科目のなかから、各コースで開設されている全ての必修科目の単位を含め、一般科目6単位以上、専門共通科目18単位以上、専門コース科目38単位以上、合計62単位以上を修得している。

各コースで修得しなければならない単位数

区分 コース	必修科目			選択科目			合計
	一般 科目	専門科目		一般 科目	専門科目		
		専門共通 科目	専門コース 科目		専門共通 科目	専門コース 科目	
電気電子 システム工学	2 単位 (2 単位)	10 単位 (10 単位)	24 単位 (24 単位)	4 単位 (6 単位)	8 単位 (12 単位)	14 単位 (20 単位)	62 単位 (74 単位)
機械制御 システム工学						14 単位 (22 単位)	62 単位 (76 単位)
建設工学							

() 内は開設単位数

※詳細については、学則参照

1-7 大学における単位の認定

専攻科を修了するためには、2年以上にわたって62単位以上を修得しなければなりません。大学において修得した単位は、10単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、その単位は申請により認定されます。

大学等で単位を修得するためには、実際に近隣の大学等で修得する方法のほか放送大学を通じて修得できる方法があります。

放送大学での履修については、個人で申し込むことになっています。この場合の履修科目については、コース長に確認して、履修の申し込みをしてください。

放送大学	入学料：	7, 000円	※科目履修生の場合
	授業料：	5, 500円	(1単位につき)

1－8 学士（工学）号の取得

本専攻科を修了した学生は、申請する専攻の区分で定められている単位数を取得している場合、所定の手続きを経て、国の機関である大学改革支援・学位授与機構より学士（工学）の学位が授与されます。これによって大学の学部卒業者と同じ資格を持つことにより、大学院への入学資格が得られます。なお、申請する専攻の区分で定められている必要単位数は、専攻科修了の必要単位数とは異なるので、注意が必要です。

2. 進路に関すること

専攻科学生は、大学学部学生と修学年数が同じであり、更に学力水準が同等以上であると自負できるように自ら勉学に励まなければなりません。専攻科修了後、学士（工学）の学位を取得すれば大学学部卒業生と同等の処遇で実社会に出て活躍することができます。

専攻科修了予定の学生の就職・進学に関する相談や指導については、進路指導委員会委員（各コースの担当教員）や特別研究基礎及び特別研究の担当教員が行いますが、自身の将来については日常から意識的に考えておくことが大切です。

3. 学生生活に関すること

専攻科長，コース長及び専攻科委員会委員が主として専攻科の運営指導に当たりますが，所属する特別研究基礎及び特別研究の担当教員とは日常の学習・生活について特に密な連絡をとり有意義な学生生活を送ってください。

専攻科にあっては，自主的に勉学に励み，高専本科の1～5学年の学生をリードするだけの学力と気質を備えた学生として成長してくれることを強く望みます。また専攻科学生には，それでこそ専攻科学生といわれるような意気込みと舞鶴高専専攻科の実力を広く社会に知らしめる努力と役割を期待するところです。

専攻科は，高専本科とはつながっていますが，本科の延長ではなく本科とは明確な区切りをつけ，新たに誇りを持った行動を期待します。

3－1 学生生活

専攻科学生は，成人として高専本科の学生から尊敬されるように，毅然たる態度で勉学に励むとともに，以下の基本事項を遵守して日常の生活を過ごしてください。

- (1) 学生準則及び懲戒規定等の適用はおおむね本科学生に準じます。
- (2) 校内及び校内周辺での飲酒及び喫煙は，禁止です。
- (3) 自動車等は，許可制で利用することができます。指定された場所に駐車してください。
- (4) 自転車通学者については，本科学生と同様にシールを貼付することとし，所定の場所に置くようにしてください。
- (5) 校外であっても，専攻科学生として，また成人として社会的に良識のある行動を期待します。
- (6) 原則として本科学生の学生会には入会できません。ただし，各クラブ・同好会の判断によってその活動に参加すること及び対外試合等へ参加することができます。

3－2 授業料免除，奨学金等

本科学生と同様，以下の制度の対象者となります。

- (1) 授業料免除及び日本学生支援機構奨学金等
- (2) JR等の利用における学割証

4. 令和7年度 専攻科科目担当者一覧

【1年】

一般科目・専門共通科目

科 目 名	学 年	担当教員名
<u>一 般 科 目</u>		
◎ 英語演習Ⅰ	1年前期	三 浦 宏 文
◎ 英語演習Ⅱ	1年後期	藤 田 憲 司
近代物理学	1年後期	宝 利 剛
<u>専門共通科目</u>		
◎ 応用解析Ⅰ	1年前期	馬 越 春 樹
◎ 応用解析Ⅱ	1年後期	馬 越 春 樹
先端材料工学	1年前期	清 原 修 二
エネルギー工学	1年前期	小 林 洋 平
画像工学	1年後期	森 健太郎
システム設計学	1年後期	室 卷 孝 郎
流体工学特論	1年後期	野 間 正 泰

◎は必修科目

電気電子システム工学コース 専門コース科目

科 目 名	学 年	担当教員名
◎ 特別研究基礎	1年	
◎ 特別実験	1年前期	内海・伊藤・高木・井上
◎ システム制御工学	1年後期	花 田 研 太
◎ エンジニアリング・デザイン演習	1年後期	丹下・篠原・西
情報工学	1年前期	片 山 英 昭
応用通信工学	1年前期	丹 下 裕
信号処理特論	1年前期	花 田 研 太
制御工学特論	1年前期	高 木 太 郎
電磁気応用工学	1年前期	内 海 淳 志
電子回路特論	1年後期	西 佑 介
電子デバイス工学	1年後期	蘆 田 湧 一
インターンシップ	1年	コ ー ス 長

◎は必修科目

機械制御システム工学コース 専門コース科目

科 目 名	学 年	担当教員名
◎ 特別研究基礎	1 年	
◎ 特別実験	1 年前期	篠原・小林・村上・高木
◎ システム制御工学	1 年後期	花 田 研 太
◎ エンジニアリング・デザイン演習	1 年後期	丹下・篠原・西
材料力学特論Ⅰ	1 年前期	篠 原 正 浩
流体力学	1 年前期	谷 川 博 哉
制御工学特論	1 年前期	高 木 太 郎
信号処理特論	1 年前期	花 田 研 太
材料力学特論Ⅱ	1 年後期	篠 原 正 浩
エネルギー環境学	1 年後期	小 林 洋 平
電子回路特論	1 年後期	西 佑 介
インターンシップ	1 年	コ ー ス 長

◎は必修科目

建設工学コース 専門コース科目

科 目 名	学 年	担当教員名
◎ 特別研究基礎	1 年	
◎ 特別実験	1 年前期	徳永・渡部・中尾
◎ 構造力学特論	1 年前期	玉 田 和 也
◎ エンジニアリング・デザイン演習	1 年後期	渡 部 昌 弘
土木数値解析	1 年前期	中 尾 尚 史
設計演習	1 年前期	尾 上 亮 介
まちづくり学	1 年後期	尾 上 亮 介
水理学特論	1 年後期	平 子 遼
耐震工学特論	1 年後期	渡 部 昌 弘
建設材料特論	1 年後期	毛 利 聡
インターンシップ	1 年	コ ー ス 長

◎は必修科目

【2年】

一般科目・専門共通科目

科 目 名	学 年	担当教員名
<u>一 般 科 目</u>		
日本文化論	2年前期	荻 田 みどり
科学と社会	2年前期	三 浦 宏 文
<u>専門共通科目</u>		
◎ 環境工学特論	2年前期	山 崎 慎 一
◎ 技術者倫理	2年前期	三 浦 宏 文
ネットワークシステム論	2年前期	舩 木 英 岳
◎ 特別演習	2年後期	室 巻 ・ 山 崎

◎は必修科目

電気電子システム工学コース 専門コース科目

科 目 名	学 年	担当教員名
◎ 特別研究	2年	
パワーエレクトロニクス	2年前期	中 川 重 康
知識情報工学	2年前期	伊 藤 稔
インターンシップ	2年	コ ー ス 長

◎は必修科目

機械制御システム工学コース 専門コース科目

科 目 名	学 年	担当教員名
◎ 特別研究	2年	
プラント工学	2年前期	小 林 洋 平
知識情報工学	2年前期	伊 藤 稔
インターンシップ	2年	コ ー ス 長

◎は必修科目

建設工学コース 専門コース科目

科 目 名	学 年	担当教員名
◎ 特別研究	2年	
メンテナンス工学	2年前期	玉 田 和 也
地盤工学特論	2年前期	加 登 文 学
建築環境工学特論	2年前期	徳 永 泰 伸
空間デザイン論	2年前期	今 村 友里子
インターンシップ	2年	コ ー ス 長

◎は必修科目

5. 専攻科の学年別配当単位数

総合システム工学専攻・電気電子システム工学コース教育課程表

(令和7年度の入学者に適用)

区分		授 業 科 目					単位数	1 年		2 年		DPとの 対応	CPとの 対応	備考
								前期	後期	前期	後期			
一 般 科 目	一 般	◎ 英 語 演 習 I	1	1				(iv)	(1)2					
		◎ 英 語 演 習 II	1		1			(iv)	(1)2					
		日 本 文 化 論	2			2		(iv)	(1)1					
		科 学 と 社 会	2			2		(iv)	(1)1					
		近 代 物 理 学	2		2			(iv)	(1)1					
		一般科目開設単位計		8	1	3	4							
一般科目 修得単位		6単位以上												
専 門 科 目	専 門 共 通 科 目	◎ 特 別 演 習	2				2	(v)	(2)4					
		◎ 応 用 解 析 I	2	2				(i)	(2)1					
		◎ 応 用 解 析 II	2		2			(i)	(2)1					
		◎ 技 術 者 倫 理	2			2		(iv)	(2)3					
		◎ 環 境 工 学 特 論	2			2		(i)	(2)2					
		ネットワークシステム論	2			2		(i)	(2)2					
		画 像 工 学	2		2			(i)	(2)2					
		先 端 材 料 工 学	2	2				(i)	(2)2					
		エ ネ ル ギ ー 工 学	2	2				(i)	(2)2					
		シ ス テ ム 設 計 学	2		2			(i)	(2)2					
		流 体 工 学 特 論	2		2			(i)	(2)2					
		専門共通科目開設単位計		22	6	8	6	2						
		専門共通科目 修得単位		18単位以上										
	専 門 コ ー ス 科 目	◎ 特 別 研 究 基 礎	8	4	4			(v)	(3)4	学修総まとめ科目				
		◎ 特 別 研 究	10			5	5	(v)	(3)4					
		◎ 特 別 実 験	2	2				(iii)	(3)2					
		◎ * エンジニアリング・デザイン演習	2		2			(iii)	(3)3					
		◎ * シ ス テ ム 制 御 工 学	2	2				(ii)	(3)1					
		パワーエレクトロニクス	2			2		(ii)	(3)1					
		情 報 工 学	2	2				(ii)	(3)1					
		電 磁 気 応 用 工 学	2	2				(ii)	(3)1					
		応 用 通 信 工 学	2	2				(ii)	(3)1					
		* 信 号 処 理 特 論	2	2				(ii)	(3)1					
		* 電 子 回 路 特 論	2		2			(ii)	(3)1					
		* 制 御 工 学 特 論	2		2			(ii)	(3)1					
		* 知 識 情 報 工 学	2			2		(ii)	(3)1					
		電 子 デ バ イ ス 工 学	2		2			(ii)	(3)1					
		イ ン タ ー ネット	2	(2)				(iii)	(3)3					
専門コース科目開設単位計		44	16(2)	12(2)	9(2)	5(2)								
専門コース科目 修得単位		38単位以上												
専門科目 修得単位		56単位以上												
一般・専門科目開設単位合計		74	23(2)	23(2)	19(2)	7(2)								
一般・専門科目修得単位合計		62単位以上												

(注) ◎は必修科目

* は機械制御システム工学コースと同時開講

総合システム工学専攻・機械制御システム工学コース教育課程表

(令和7年度の入学者に適用)

区分		授 業 科 目					単位数	1 年		2 年		DPとの 対応	CPとの 対応	備考
								前期	後期	前期	後期			
一 般 科 目	一 般	◎ 英 語 演 習 I	1	1				(iv)	(1)2					
		◎ 英 語 演 習 II	1	1			(iv)	(1)2						
		日 本 文 化 論	2		2		(iv)	(1)1						
		科 学 と 社 会	2		2		(iv)	(1)1						
		近 代 物 理 学	2	2			(iv)	(1)1						
		一般科目開設単位計		8	1	3	4							
一般科目 修得単位		6単位以上												
専 門 科 目	専 門 共 通 科 目	◎ 特 別 演 習	2				2	(v)	(2)4					
		◎ 応 用 解 析 I	2	2			(i)	(2)1						
		◎ 応 用 解 析 II	2		2		(i)	(2)1						
		◎ 技 術 者 倫 理	2			2	(iv)	(2)3						
		◎ 環 境 工 学 特 論	2			2	(i)	(2)2						
		ネットワークシステム論	2			2	(i)	(2)2						
		画 像 工 学	2		2		(i)	(2)2						
		先 端 材 料 工 学	2	2			(i)	(2)2						
		エ ネ ル ギ ー 工 学	2	2			(i)	(2)2						
		シ ス テ ム 設 計 学	2		2		(i)	(2)2						
		流 体 工 学 特 論	2		2		(i)	(2)2						
		専門共通科目開設単位計		22	6	8	6	2						
		専門共通科目 修得単位		18単位以上										
	専 門 コ ー ス 科 目	◎ 特 別 研 究 基 礎	8	4	4		5	5	(v)	(3)4	学修総まとめ科目			
		◎ 特 別 研 究	10			5		(v)	(3)4					
		◎ 特 別 実 験	2	2				(iii)	(3)2					
		◎ * エンジニアリング・デザイン演習	2		2			(iii)	(3)3					
		◎ * シ ス テ ム 制 御 工 学	2		2			(ii)	(3)1					
		材 料 力 学 特 論 I	2	2				(ii)	(3)1					
		材 料 力 学 特 論 II	2		2			(ii)	(3)1					
		* 信 号 処 理 特 論	2	2				(ii)	(3)1					
		流 体 力 学	2	2				(ii)	(3)1					
		プ ラ ン ト 工 学	2			2		(ii)	(3)1					
		* 電 子 回 路 特 論	2		2			(ii)	(3)1					
		* 制 御 工 学 特 論	2	2				(ii)	(3)1					
		* 知 識 情 報 工 学	2			2		(ii)	(3)1					
		エ ネ ル ギ ー 環 境 学	2		2			(ii)	(3)1					
		イ ン タ ー ン シ ッ プ	2	(2)				(iii)	(3)3					
専門コース科目開設単位計		44	14(2)	14(2)	9(2)	5(2)								
専門コース科目 修得単位		38単位以上												
専門科目 修得単位		56単位以上												
一般・専門科目開設単位合計		74	21(2)	25(2)	19(2)	7(2)								
一般・専門科目修得単位合計		62単位以上												

(注) ◎は必修科目

* は電気電子システム工学コースと同時開講

総合システム工学専攻・建設工学コース教育課程表

(令和7年度の入学者に適用)

区分		授 業 科 目					単位数	1 年		2 年		DPとの 対応	CPとの 対応	備考
								前期	後期	前期	後期			
一 般 科 目	一 般	◎ 英 語 演 習 I	1	1				(iv)	(1)2					
		◎ 英 語 演 習 II	1		1			(iv)	(1)2					
		日 本 文 化 論	2			2		(iv)	(1)1					
		科 学 と 社 会	2			2		(iv)	(1)1					
		近 代 物 理 学	2		2			(iv)	(1)1					
		一般科目開設単位計	8	1	3	4								
一般科目 修得単位			6単位以上											
専 門 科 目	専 門 共 通 科 目	◎ 特 別 演 習	2				2	(v)	(2)4					
		◎ 応 用 解 析 I	2	2				(i)	(2)1					
		◎ 応 用 解 析 II	2		2			(i)	(2)1					
		◎ 技 術 者 倫 理	2			2		(iv)	(2)3					
		◎ 環 境 工 学 特 論	2			2		(i)	(2)2					
		ネットワークシステム論	2			2		(i)	(2)2					
		画 像 工 学	2		2			(i)	(2)2					
		先 端 材 料 工 学	2	2				(i)	(2)2					
		エ ネ ル ギ ー 工 学	2	2				(i)	(2)2					
		シ ス テ ム 設 計 学	2		2			(i)	(2)2					
		流 体 工 学 特 論	2		2			(i)	(2)2					
		専門共通科目開設単位計	22	6	8	6	2							
		専門共通科目 修得単位			18単位以上									
	専 門 科 目 コ ー ス 科 目	◎ 特 別 研 究 基 礎	8	4	4			(v)	(3)4	学修総まとめ科目				
		◎ 特 別 研 究	10			5	5	(v)	(3)4					
		◎ 特 別 実 験	2	2				(iii)	(3)2					
		◎ エンジニアリング・デザイン演習	2		2			(iii)	(3)3					
◎ 構 造 力 学 特 論		2	2				(ii)	(3)1						
ま ち づ く り 学		2		2			(ii)	(3)1						
耐 震 工 学 特 論		2		2			(ii)	(3)1						
建 設 材 料 特 論		2		2			(ii)	(3)1						
メ ン テ ナ ン ス 工 学		2			2		(ii)	(3)1						
地 盤 工 学 特 論		2			2		(ii)	(3)1						
水 理 学 特 論		2		2			(ii)	(3)1						
土 木 数 値 解 析		2	2				(ii)	(3)1						
建 築 環 境 工 学 特 論		2			2		(ii)	(3)1						
空 間 デ ザ イ ン 論		2			2		(ii)	(3)1						
設 計 演 習	2	2				(iii)	(3)3							
インターンシップ			2	(2)				(iii)	(3)3					
専門コース科目開設単位計			46	12(2)	14(2)	13(2)	5(2)							
専門コース科目 修得単位			38単位以上											
専門科目 修得単位			56単位以上											
一般・専門科目開設単位合計			76	19(2)	25(2)	23(2)	7(2)							
一般・専門科目修得単位合計			62単位以上											

(注) ◎は必修科目

総合システム工学専攻・電気電子システム工学コース教育課程表

(令和6年度の入学者に適用)

区分		授 業 科 目	単位数	1 年		2 年		DPとの 対応	CPとの 対応	備考	
				前期	後期	前期	後期				
一 般 科 目	一 般	◎ 英 語 演 習 I	1	1				(iv)	(1)2		
		◎ 英 語 演 習 II	1		1			(iv)	(1)2		
		日 本 文 化 論	2			2		(iv)	(1)1		
		科 学 と 社 会	2			2		(iv)	(1)1		
		近 代 物 理 学	2		2			(iv)	(1)1		
		一般科目開設単位計	8	1	3	4					
一般科目 修得単位			6単位以上								
専 門 科 目	専 門 共 通 科 目	◎ 特 別 演 習	2				2	(v)	(2)4		
		◎ 応 用 解 析 I	2	2				(i)	(2)1		
		◎ 応 用 解 析 II	2		2			(i)	(2)1		
		◎ 技 術 者 倫 理	2			2		(iv)	(2)3		
		◎ 環 境 工 学 特 論	2			2		(i)	(2)2		
		ネットワークシステム論	2			2		(i)	(2)2		
		画 像 工 学	2		2			(i)	(2)2		
		先 端 材 料 工 学	2	2				(i)	(2)2		
		エ ネ ル ギ ー 工 学	2	2				(i)	(2)2		
		シ ス テ ム 設 計 学	2		2			(i)	(2)2		
		流 体 工 学 特 論	2		2			(i)	(2)2		
		専門共通科目開設単位計	22	6	8	6	2				
		専門共通科目 修得単位			18単位以上						
	専 門 コ ー ス 科 目	◎ 特 別 研 究 基 礎	8	4	4			(v)	(3)4	学修総まとめ科目	
		◎ 特 別 研 究	10			5	5	(v)	(3)4		
		◎ 特 別 実 験	2	2				(iii)	(3)2		
		◎ * エンジニアリング・デザイン演習	2		2			(iii)	(3)3		
		◎ * シ ス テ ム 制 御 工 学	2		2			(ii)	(3)1		
		パワーエレクトロニクス	2			2		(ii)	(3)1		
		情 報 工 学	2	2				(ii)	(3)1		
		電 磁 気 応 用 工 学	2		2			(ii)	(3)1		
		応 用 通 信 工 学	2	2				(ii)	(3)1		
		* 信 号 処 理 特 論	2	2				(ii)	(3)1		
		* 電 子 回 路 特 論	2		2			(ii)	(3)1		
		* 制 御 工 学 特 論	2	2				(ii)	(3)1		
		* 知 識 情 報 工 学	2			2		(ii)	(3)1		
		電 子 デ バ イ ス 工 学	2		2			(ii)	(3)1		
		インターンシップ	2	(2)				(iii)	(3)3		
専門コース科目開設単位計			44	14(2)	14(2)	9(2)	5(2)				
専門コース科目 修得単位			38単位以上								
専門科目 修得単位			56単位以上								
一般・専門科目開設単位合計			74	21(2)	25(2)	19(2)	7(2)				
一般・専門科目修得単位合計			62単位以上								

(注) ◎は必修科目

* は機械制御システム工学コースと同時開講

総合システム工学専攻・機械制御システム工学コース教育課程表

(令和6年度の入学者に適用)

区分		授 業 科 目	単位数	1 年		2 年		DPとの 対応	CPとの 対応	備考	
				前期	後期	前期	後期				
一 般 科 目	一 般	◎ 英 語 演 習 I	1	1				(iv)	(1)2		
		◎ 英 語 演 習 II	1		1			(iv)	(1)2		
		日 本 文 化 論	2			2		(iv)	(1)1		
		科 学 と 社 会	2			2		(iv)	(1)1		
		近 代 物 理 学	2		2			(iv)	(1)1		
		一般科目開設単位計	8	1	3	4					
一般科目 修得単位			6単位以上								
専 門 科 目	専 門 共 通 科 目	◎ 特 別 演 習	2				2	(v)	(2)4		
		◎ 応 用 解 析 I	2	2				(i)	(2)1		
		◎ 応 用 解 析 II	2		2			(i)	(2)1		
		◎ 技 術 者 倫 理	2			2		(iv)	(2)3		
		◎ 環 境 工 学 特 論	2			2		(i)	(2)2		
		ネットワークシステム論	2			2		(i)	(2)2		
		画 像 工 学	2		2			(i)	(2)2		
		先 端 材 料 工 学	2	2				(i)	(2)2		
		エ ネ ル ギ ー 工 学	2	2				(i)	(2)2		
		シ ス テ ム 設 計 学	2		2			(i)	(2)2		
		流 体 工 学 特 論	2		2			(i)	(2)2		
		専門共通科目開設単位計	22	6	8	6	2				
		専門共通科目 修得単位			18単位以上						
	専 門 コ ー ス 科 目	◎ 特 別 研 究 基 礎	8	4	4			(v)	(3)4	学修総まとめ科目	
		◎ 特 別 研 究	10			5	5	(v)	(3)4		
		◎ 特 別 実 験	2	2				(iii)	(3)2		
		◎ * エンジニアリング・デザイン演習	2		2			(iii)	(3)3		
		◎ * シ ス テ ム 制 御 工 学	2		2			(ii)	(3)1		
		材 料 力 学 特 論 I	2	2				(ii)	(3)1		
		材 料 力 学 特 論 II	2		2			(ii)	(3)1		
		* 信 号 処 理 特 論	2	2				(ii)	(3)1		
		流 体 力 学	2	2				(ii)	(3)1		
		プ ラ ン ト 工 学	2			2		(ii)	(3)1		
		* 電 子 回 路 特 論	2		2			(ii)	(3)1		
		* 制 御 工 学 特 論	2	2				(ii)	(3)1		
		* 知 識 情 報 工 学	2			2		(ii)	(3)1		
		エ ネ ル ギ ー 環 境 学	2		2			(ii)	(3)1		
		インターンシップ	2	(2)				(iii)	(3)3		
専門コース科目開設単位計			44	14(2)	14(2)	9(2)	5(2)				
専門コース科目 修得単位			38単位以上								
専門科目 修得単位			56単位以上								
一般・専門科目開設単位合計			74	21(2)	25(2)	19(2)	7(2)				
一般・専門科目修得単位合計			62単位以上								

(注) ◎は必修科目

* は電気電子システム工学コースと同時開講

総合システム工学専攻・建設工学コース教育課程表

(令和6年度の入学者に適用)

区分		授 業 科 目				単位数	1 年		2 年		DPとの 対応	CPとの 対応	備考
							前期	後期	前期	後期			
一 般 科 目	一 般	◎ 英 語 演 習 I	1	1				(iv)	(1)2				
		◎ 英 語 演 習 II	1		1			(iv)	(1)2				
		日 本 文 化 論	2			2		(iv)	(1)1				
		科 学 と 社 会	2			2		(iv)	(1)1				
		近 代 物 理 学	2		2			(iv)	(1)1				
		一般科目開設単位計	8	1	3	4							
一般科目 修得単位			6単位以上										
専 門 科 目	専 門 共 通 科 目	◎ 特 別 演 習	2				2	(v)	(2)4				
		◎ 応 用 解 析 I	2	2				(i)	(2)1				
		◎ 応 用 解 析 II	2		2			(i)	(2)1				
		◎ 技 術 者 倫 理	2			2		(iv)	(2)3				
		◎ 環 境 工 学 特 論	2			2		(i)	(2)2				
		ネットワークシステム論	2			2		(i)	(2)2				
		画 像 工 学	2		2			(i)	(2)2				
		先 端 材 料 工 学	2	2				(i)	(2)2				
		エ ネ ル ギ ー 工 学	2	2				(i)	(2)2				
		シ ス テ ム 設 計 学	2		2			(i)	(2)2				
		流 体 工 学 特 論	2		2			(i)	(2)2				
		専門共通科目開設単位計	22	6	8	6	2						
		専門共通科目 修得単位			18単位以上								
	専 門 科 目 コ ー ス 科 目	◎ 特 別 研 究 基 礎	8	4	4			(v)	(3)4	学修総まとめ科目			
		◎ 特 別 研 究	10			5	5	(v)	(3)4				
		◎ 特 別 実 験	2	2				(iii)	(3)2				
		◎ エンジニアリング・デザイン演習	2		2			(iii)	(3)3				
◎ 構 造 力 学 特 論		2		2			(ii)	(3)1					
ま ち づ く り 学		2		2			(ii)	(3)1					
耐 震 工 学 特 論		2		2			(ii)	(3)1					
建 設 材 料 特 論		2		2			(ii)	(3)1					
メ ン テ ナ ン ス 工 学		2			2		(ii)	(3)1					
地 盤 工 学 特 論		2			2		(ii)	(3)1					
水 理 学 特 論		2		2			(ii)	(3)1					
土 木 数 値 解 析		2	2				(ii)	(3)1					
建 築 環 境 工 学 特 論		2			2		(ii)	(3)1					
空 間 デ ザ イ ン 論		2			2		(ii)	(3)1					
設 計 演 習	2	2				(iii)	(3)3						
インターンシップ	2	14(2)					(iii)	(3)3					
専門コース科目開設単位計			46	12(2)	14(2)	13(2)	5(2)						
専門コース科目 修得単位			38単位以上										
専門科目 修得単位			56単位以上										
一般・専門科目開設単位合計			76	19(2)	25(2)	23(2)	7(2)						
一般・専門科目修得単位合計			62単位以上										

(注) ◎は必修科目

舞鶴工業高等専門学校学則

昭和40年4月1日施行

令和7年2月19日一部改正

目次

第1章 総則

- 第1節 目的(第1条)
- 第2節 自己評価等(第2条―第2条の2)
- 第3節 職員組織(第3条―第6条)
- 第4節 学年, 学期, 休業日等(第7条―第10条)

第2章 準学士課程

- 第1節 修業年限, 準学士課程の目的, 学科, 学級数, 入学定員及び各学科の人材養成の目的(第11条・第12条)
- 第2節 教育課程等(第13条―第16条)
- 第3節 入学, 退学, 卒業等(第17条―第27条の2)
- 第4節 検定料, 入学料, 授業料及び寄宿料(第28条―第34条の2)
- 第5節 学生準則, 賞罰及び除籍(第35条―第37条の2)
- 第6節 学寮(第38条)

第3章 専攻科課程

- 第1節 設置, 目的, 修業年限及び在学年限等(第39条―第42条)
- 第2節 教育課程等(第43条)
- 第3節 入学, 休学, 修了等(第44条―第49条)

第4章 補則

- 第1節 研究生, 聴講生, 特別聴講学生及び科目等履修生(第50条―第52条)
- 第2節 外国人留学生(第53条)
- 第3節 公開講座(第54条)

第1章 総則

第1節 目的

(目的)

第1条 第1条 舞鶴工業高等専門学校(以下「本校」という。)は, 教育基本法(平成18年法律第120号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づいて, 深く専門の学芸を教授し, 職業に必要な能力を育成することを目的とし, その目的を実現するための教育を行い, その成果を広く社会に提供することにより, 社会の発展に寄与するものとする。

第2節 自己評価等

(自己評価等)

第2条 本校は、教育水準の向上を図り、高等専門学校の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価についての必要な事項は、別に定める。

3 本校は、第1項の点検及び評価の結果について、本校の職員以外の者による検証を行うよう努めなければならない。

(情報の積極的な提供)

第2条の2 本校は、本校における教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第3節 職員組織

(職員組織)

第3条 本校に、校長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及び技術職員を置く。

2 職員の職務は、学校教育法その他法令の定めるところによる。

(教務主事、学生主事及び寮務主事)

第4条 本校に、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

2 教務主事は、校長の命を受け教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

3 学生主事は、校長の命を受け学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するも除く。）を掌理する。

4 寮務主事は、校長の命を受け学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

(事務部)

第5条 本校に、庶務、会計、教務及び学生の厚生補導に関する事務を処理するため、事務部を置く。

(内部組織)

第6条 前2条に規定するもののほか、本校の内部組織は、別に定めるところによる。

第4節 学年、学期、休業日等

(学年)

第7条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第8条 学年を分けて、前期及び後期の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

ただし、授業期間については校長が別に定める。

(休業日)

第9条 休業日は、次のとおりとする。ただし、特別の必要がある場合には、校長は、これらの休業日を授業日に振り替えることができる。

- (1) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
 - (2) 日曜日及び土曜日
 - (3) 春季休業
 - (4) 夏季休業
 - (5) 冬季休業
 - (6) 学年末休業
- 2 前項第3号から第6号までの休業日の休業開始日及び終了日は、校長が別に定める。
 - 3 第1項に規定する休業日のほか、臨時の休業日は、校長がその都度定める。

（開校記念日）

第9条の2 4月26日を、本校の開校記念日とする。

（授業終始の時刻）

第10条 授業終始の時刻は、校長が別に定める。

第2章 準学士課程

第1節 修業年限、準学士課程の目的、学科、学級数、入学定員及び各学科の人材養成の目的

（修業年限及び在学年限）

第11条 修業年限は、5年とする。ただし、10年を超えて在学することはできない。

（準学士課程の目的）

第11条の2 準学士課程は、専門分野の基礎知識を修得し、社会の変化やニーズに対応した製品やシステムをつくり出す能力と、豊かな人間性・国際性を兼ね備えた実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

（学科、学級数及び入学定員）

第12条 学科、学級数、入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学 科	学級数	入学定員	収容定員
機 械 工 学 科	1	40人	200人
電 気 情 報 工 学 科	1	40人	200人
電 子 制 御 工 学 科	1	40人	200人
建設システム工学科	1	40人	200人

- 2 建設システム工学科に、都市環境コース及び建築コースを置く。
コース制の取り扱いについては、別に定める。
- 3 校長は、教育上特に有益と認めるときは、前々項の規定にかかわらず、異なる学科の学生をもって学級を編成することができる。

(各学科の人材養成の目的)

第12条の2 各学科の人材養成の目的は次のとおりとする。

(1) 機械工学科

あらゆるものづくりの基礎となる，機械工学の基礎知識と技術を修得し，環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

(2) 電気情報工学科

電気・電子工学及び情報・通信工学の分野の基礎知識と技術を修得し，環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

(3) 電子制御工学科

電子・機械システム及び制御・情報技術を幅広く修得し，それらを融合したメカトロニクス技術分野において，環境とエネルギーに配慮した設計・開発・管理運営ができる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

(4) 建設システム工学科

安全で快適な社会の創造とそのための基盤を，計画・建設・維持する基礎知識と技術を修得し，環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

第2節 教育課程等

(授業を行う期間)

第13条 1年間の授業を行う期間は，定期試験等の期間を含め，35週にわたることを原則とする。

(教育課程)

第14条 本校の教育課程は，授業科目及び特別活動をもって編成する。

2 学年ごとの授業科目及びその単位数は，一般科目にあっては別表第1，専門科目にあっては別表第2のとおりとする。

3 前項の規定にかかわらず，校長は，教育上有益と認めるときは，特別に定めた教育内容の授業科目を開設することができる。本授業科目の取り扱いについては別に定める。

4 各授業科目の単位数は，30単位時間(1単位時間は50分とする。第8項において同じ)の履修を1単位として計算するものとし，これを履修単位という。

5 前項の規定にかかわらず，本校が特に定める授業科目については，1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により単位数を計算することができるものとし，これを学修単位という。

(1) 講義及び演習については，15時間から30時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験，実習及び実技については，30時間から45時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とする。

- 6 前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計数は、60単位を超えないものとする。
- 7 第4項及び第5項の規定にかかわらず、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。
- 8 特別活動は、第1学年から第3学年まで各学年30単位時間を実施するものとする。
- 9 前項の規定のほかに、インターンシップに関し必要な事項は、別に定める。

(授業の方法)

- 第14条の2 本校は、文部科学大臣が別に定めるところにより、授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外場で履修させることができる。
- 2 本校は、授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外場で履修させる場合についても、同様とする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

- 第14条の3 本校は、本校における授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に努めなければならない。

(他の高等専門学校における授業科目の履修)

- 第14条の4 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(高等専門学校以外の教育施設等における学修等)

- 第14条の5 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。
- 2 前項により認定することができる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 3 第1項の規定は、学生が、外国の大学又は高等学校に留学する場合及び外国の大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。この場合において認定することができる単位数は、前条及び第1項により本校において修得したものとみなし、又は認定する単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 4 第3項に関し必要な事項は、別に定める。

(学年の課程修了及び卒業認定)

- 第15条 各学年の課程の修了又は卒業を認めるに当たっては、学生の平素の成績を評価して行うものとする。

(再履修)

第16条 前条の認定の結果、原学年に留められた者は、当該学年の課程を再履修するものとする。

第3節 入学、退学、卒業等

(入学資格)

第17条 本校に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 中学校を卒業した者
- (2) 義務教育学校の後期課程を卒業した者
- (3) 中等教育学校の前期課程を修了した者
- (4) 外国において、学校教育における9年の課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣が中学校の課程と同等の課程を有する者として認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 就学義務猶予免除者等の中学校卒業程度認定規則（昭和41年文部省令第36号）により、中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認定された者
- (8) その他相当年齢に達し、本校が中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学者の選抜及び入学の許可)

第18条 校長は、入学志願者について学力検査の成績、出身学校の長から送付された調査書その他必要な書類を資料として入学者の選抜を行う。

- 2 校長は、前項によるほか、入学定員の一部について出身学校の長の推薦に基づき学力検査を免除し、送付された調査書等を資料として、入学者の選抜を行うことができる。
- 3 校長は、前2項の選抜結果に基づき、入学料を納付した者に対して入学を許可する。ただし、入学料の免除又は徴収猶予の申請書を受理された者にあつては、入学を許可するものとする。

(編入学)

第19条 高等学校又は他の高等専門学校等から本校の第4学年に編入学を希望する者がある場合には、校長は、入学資格を審査のうえ、入学を希望する学科において受け入れが可能な場合に限り、前条の規定に基づく入学者の選抜を実施して、編入学を許可することができる。

- 2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(転入学)

第19条の2 他の高等専門学校から本校に転入学を希望する者がある場合には、校長は、入学資格を審査のうえ、教育上支障がないと認めた場合に限り、相当学年に転入学を許可することができる。

- 2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(入学の手続)

第20条 入学を許可された者は、所定の期日までに保護者等と連署した入学誓約書及び校長が定めた書類を提出しなければならない。

2 前項の手続きを終了しない者がある場合には、校長は、その入学の許可を取り消すことがある。

(転科)

第21条 転科を希望する者がある場合には、校長は、学年の初めにおいて選考のうえ、第3学年までに限り転科を許可することがある。

2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(休学)

第22条 学生は、疾病その他やむを得ない事由により3か月以上継続して修学することができない場合には、校長の許可を受けて休学することができる。

(休学の期間)

第22条の2 休学の期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、休学期間の延長を認めることができる。

2 休学の期間は、通算して5年を超えることができない。

3 休学期間は、第11条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

(復学)

第23条 休学した者は、休学の事由がなくなった場合には、校長の許可を受けて復学することができる。

(出席停止)

第24条 学生に感染症その他疾病がある場合には、校長は、出席停止を命ずることができる。

(退学及び再入学)

第25条 学生は、疾病その他やむを得ない事由により退学しようとする場合には、校長の許可を受けて退学することができる。

2 前項の規定により退学した者で再入学を希望する者がある場合には、校長は、選考の上相当学年に入学を許可することができる。

(他の学校への入学等)

第26条 他の学校に入学、転学又は編入学を志望しようとする者は、校長の許可を受けなければならない。

(留学)

第26条の2 校長は、教育上特に有益と認めるときは、学生が外国の高等学校又は大学に留学することを許可することができる。

2 校長は、前項の規定により留学することを許可された学生について、外国の高等学校又は大学における履修を本校における履修とみなし、60単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

3 校長は、前項の規定により単位の修得を認定された学生について、学年の途中においても、各学年の課程の修了又は卒業を認めることができる。

4 前3項に関し必要な事項は、別に定める。

(卒業)

第27条 全学年の課程を修了した者には、校長は所定の卒業証書を授与する。

(称号)

第27条の2 本校を卒業した者は、準学士と称することができる。

第4節 検定料、入学料、授業料及び寄宿料

(検定料)

第28条 入学を志願する者は、願書提出と同時に、検定料を納付しなければならない。

(授業料)

第29条 学生は、授業料の年額を前期及び後期の2期に区分して納付するものとし、それぞれの期において納付する額は、年額の2分の1に相当する額とする。

2 前項の授業料は、前期分にあつては5月末日までに、後期分にあつては10月末日までに納付するものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、前期分授業料納付の際に後期分授業料も一括して納付することができる。

4 入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料は、入学を許可されたときに納付することができる。

(学年の途中で入学した者の授業料)

第30条 学年の中途において入学した者が前期又は後期において納付する授業料の額は、授業料の年額の12分の1に相当する額に入学の日の属する月から次の納付の時期前までの月数を乗じて得た額とし、入学の日の属する月に納付するものとする。

(学年の途中で退学する者の授業料)

第31条 学年の途中で退学する者は、退学する日の属する時期が前期であるときは授業料の年額の2分の1に相当する額の授業料を、退学する日の属する時期が後期であるときは授業料の年額に相当する額の授業料をそれぞれ納付するものとする。

(寄宿料)

第32条 学寮に入寮している学生は、入寮した日の属する月から退寮する日の属する月までの間、寄宿料を納付するものとする。

(入学料、授業料及び寄宿料の免除等)

第33条 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者（以下この条において「学資負担者」という。）が死亡し、入学料の納付が著しく困難であると認められる場合、入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる場合、又はこれ等に準じて校長が相当と認める特別の事由がある場合には、入学料の全額若しくは半額を免除することがある。

- 2 経済的理由により納付期限までに入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、入学前1年以内において学資負担者が死亡し、入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる場合、又はこれ等に準じて校長が相当と認める事由がある場合には、入学料の徴収を猶予することがある。
- 3 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合又は休学、死亡その他やむを得ない事由があると認められる場合には、授業料の全額若しくは一部を免除し、又はその徴収を猶予することがある。
- 4 風水害等の災害を受けたことにより寄宿料の納付が困難であると認められる場合には、寄宿料の全部を免除することがある。
- 5 前4項に関し必要な事項は、別に定める。

(検定料等の額及び徴収方法)

第34条 検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額並びに徴収方法は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第35号）に定めるところによる。

(検定料等の返還)

第34条の2 既納の検定料、入学料、授業料及び寄宿料は返還しない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合には授業料相当額を返還する。

- (1) 第29条の第3項の規定に基づき、前期分及び後期分授業料を納付し、後期分授業料の徴収時期前に、休学又は退学した場合には、後期分授業料相当額
- (2) 第29条の第4項の規定に基づき、授業料を納付した者が3月31日までに入学を辞退した場合は、申出により当該授業料相当額

第5節 学生準則、賞罰及び除籍

(学生準則)

第35条 学生は、この学則に定めるもののほか、別に定める学生準則を遵守しなければならない。

(表彰)

第36条 学生として表彰に値する行為があった場合には、表彰することがある。

(懲戒)

第37条 教育上特に必要がある場合には、学生に退学、停学、訓告その他の懲戒を加えることがある。

2 退学は、次の各号のいずれかに該当する者について行うものとする。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて、欠席過多の者
- (4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

3 停学の期間は、在学年限に算入し、修業年限に含めないものとする。ただし、3か月を超えない場合には、修業年限に含めることができるものとする。

(除籍)

第37条の2 次の各号のいずれかに該当する者は、校長がこれを除籍する。

- (1) 死亡又は長期間行方不明の者
- (2) 第11条に規定する在学年数を超えている者
- (3) 第22条の2に規定する休学期間を超えて、なお修学できない者
- (4) 授業料の納付を怠り督促してもなお納付しない者
- (5) 第18条第3項ただし書きに規定する入学料の免除又は徴収猶予の申請書を受理され、免除又は徴収猶予を不許可とされた者又は半額免除の許可をされた者若しくは徴収猶予を許可された者で、所定の期日までに入学料を納付しない者

第6節 学寮

(学寮)

第38条 本校に教育施設として学寮を設ける。

2 学寮の運営その他必要な事項は、別に定める。

第3章 専攻科課程

第1節 設置、目的、修業年限及び在学年限等

(設置)

第39条 本校に、専攻科を置く。

(目的)

第40条 専攻科課程は、高等専門学校基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。

(修業年限及び在学年限)

第41条 専攻科の修業年限は、2年とする。ただし、4年を超えて在学することはできない。

(専攻及び入学定員)

第42条 専攻科の専攻、入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

専 攻	入学定員	収容定員
総合システム工学専攻	16人	32人

2 総合システム工学専攻に、電気電子システム工学コース、機械制御システム工学コース及び建設工学コースを置く。

(専攻科教育の目的)

第42条の2 本校専攻科は、高等専門学校準学士課程における5年間にわたる一貫した実践教育の特徴を生かしながら、更に2年間の課程において、高度の学問

と技術を追求し、創造性・人間性豊かで、より独創的技術開発能力を兼ね備えた中核的技術者の育成を目的とする。各コースの教育目的は次のとおりとする。

(1) 電気電子システム工学コース

高等専門学校準学士課程等で修得した基礎学力と専門知識に基づき、電気電子工学およびその周辺分野に関わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者を育成することを目的とする。

(2) 機械制御システム工学コース

高等専門学校準学士課程等で修得した基礎学力と専門知識に基づき、機械工学およびその周辺分野に関わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者を育成することを目的とする。

(3) 建設工学コース

高等専門学校準学士課程等で修得した基礎学力と専門知識に基づき、土木工学、建築学およびその周辺分野に関わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者を育成することを目的とする。

第2節 教育課程等

(教育課程)

第43条 開設する授業科目及びその単位数は、別表第3のとおりとする。

2 前項の規定にかかわらず、必要に応じて集中講義を行うことができる。集中講義については別に定める。

3 授業科目の単位計算は、1単位の履修時間を教室内及び教室外を合わせて45時間とし、次の各号の基準によるものとする。

(1) 講義については、教室内毎週1時間15週をもって1単位とする。

(2) 演習については、教室内毎週2時間15週をもって1単位とする。

(3) 実験、実習については、教室内毎週3時間15週をもって1単位とする。

3 前項の規定にかかわらず、インターンシップについては、別に定める。

第3節 入学、休学、修了等

(入学資格)

第44条 専攻科に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 高等専門学校を卒業した者

(2) 高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）

専攻科の課程を修了した者のうち学校教育法第58条の2（同法第70条第1項及び第82条において準用する場合を含む。）の規程により大学に編入することができる者

- (3) 短期大学を卒業した者
- (4) 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第132条の規定により大学に編入学することができる者
- (5) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
- (6) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
- (7) 我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (8) その他本校専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学者の選考及び入学許可）

第45条 校長は、入学志願者に対して、別に定めるところにより選考の上、入学を許可する。

（休学の期間）

第46条 専攻科学生の休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として、休学期間の延長を認めることがある。

2 休学期間は、通算して2年を越えることができない。

3 休学期間は、第41条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

（修了）

第47条 専攻科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、62単位以上を修得した者について、修了を認定する。

2 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

3 第1項に規定する単位の修得及び修了の認定については、別に定める。

（準用規定）

第48条 第13条、第14条の5第1項及び第3項、第20条、第22条、第23条から第25条まで、第26条の2第1項及び第4項、第28条から第37条の2まで並びに第38条第2項の規定は、専攻科の学生について準用する。この場合において、第26条の2第1項中「外国の高等学校又は大学」とあるのは、「外国の大学」と、第37条の2第2号中「第11条」とあるのは、「第41条」と、第37条の2第3号中「第22条の2」とあるのは、「第46条」とそれぞれ読み替えるものとする。

第49条 本章に定めるもののほか、専攻科に関し必要な事項は、別に定める。

第4章 補則

第1節 研究生、聴講生、特別聴講学生及び科目等履修生

(研究生)

第50条 本校において、特定の専門事項について研究することを志願する者がある場合には、本校の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(聴講生及び特別聴講学生)

第51条 本校において開設する授業科目のうち、特定の科目について聴講を志願する者がある場合には、本校の教育に支障のない場合に限り、選考の上、聴講生として入学を許可することができる。

2 学校間相互単位互換協定に基づいて、本校が開設する授業科目のうち、特定の科目について聴講を志望する者がある場合には、本校の教育に支障のない場合に限り、選考の上、特別聴講学生として入学を許可することができる。

3 聴講生及び特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第52条 本校において、一又は複数の授業科目を履修し単位の修得を志願する者がある場合には、本校の教育に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

第2節 外国人留学生

(外国人留学生)

第53条 本校に入学を希望する外国人留学生がある場合には、選考の上、入学を許可することがある。

2 外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第3節 公開講座

(公開講座)

第54条 本校に公開講座を開設することができる。

2 公開講座に関し必要な事項は、別に定める。

学則 別表第3

1. 一般科目及び専門共通科目

区分		授 業 科 目	単位数	学年別配当		備考
				1 年次	2 年次	
一 般 科 目	一 般	◎ 英 語 演 習 I	1	1		
		◎ 英 語 演 習 II	1	1		
		日 本 文 化 論	2		2	
		科 学 と 社 会 学	2		2	
		近 代 物 理 学	2	2		
		一般科目開設単位計	8	4	4	
一般科目 修得単位		6 単位以上				
専 門 科 目	専 門 共 通 科 目	◎ 特 別 演 習	2		2	
		◎ 応 用 解 析 I	2	2		
		◎ 応 用 解 析 II	2	2		
		◎ 技 術 者 倫 理	2		2	
		◎ 環 境 工 学 特 論	2		2	
		ネットワークシステム論	2		2	
		画 像 工 学	2	2		
		先 端 材 料 工 学	2	2		
		エ ネ ル ギ ー 工 学	2	2		
		シ ス テ ム 設 計 学	2	2		
		流 体 工 学 特 論	2	2		
		専門共通科目開設単位計	22	14	8	
		専門共通科目 修得単位		18単位以上		

(注) ◎印は必修科目

2. 総合システム工学専攻

(1) 電気電子システム工学コース

区分		授 業 科 目	単位数	学年別配当		備考
				1 年次	2 年次	
専 <						

(注) ◎は必修科目

(2) 機械制御システム工学コース

区分		授 業 科 目	単位数	学年別配当		備考
				1 年次	2 年次	
専 門 科 目	専 門 コ ー ス 科 目	◎ 特 別 研 究 基 礎	8	8		学修総まとめ科目
		◎ 特 別 研 究	10		10	
		◎ 特 別 実 験	2	2		
		◎ エンジニアリング・デザイン演習	2	2		
		◎ システム制御工学	2	2		
		材料力学特論Ⅰ	2	2		
		材料力学特論Ⅱ	2	2		
		信号処理特論	2	2		
		流体力学	2	2		
		プラント工学	2		2	
		電子回路特論	2	2		
		制御工学特論	2	2		
		知識情報工学	2		2	
		エネルギー環境学	2	2		
	インターンシップ	2	(2)			
専門コース科目開設単位計		44	28 (2)	14 (2)		
専門コース科目 修得単位		38単位以上				

(注) ◎は必修科目

(3) 建設工学コース

区分		授 業 科 目	単位数	学年別配当		備考
				1 年次	2 年次	
専 門 科 目	専 門 コ ー ス 科 目	◎ 特 別 研 究 基 礎	8	8		学修総まとめ科目
		◎ 特 別 研 究	10		10	
		◎ 特 別 実 験	2	2		
		◎ エンジニアリング・デザイン演習	2	2		
		◎ 構 造 力 学 特 論	2	2		
		ま ち づ く り 学	2	2		
		耐 震 工 学 特 論	2	2		
		建 設 材 料 特 論	2	2		
		メ ン テ ナ ン ス 工 学	2		2	
		地 盤 工 学 特 論	2		2	
		水 理 学 特 論	2	2		
		土 木 数 値 解 析	2	2		
		建 築 環 境 工 学 特 論	2		2	
		空 間 デ ザ イ ン 論	2		2	
		設 計 演 習	2	2		
	イ ン タ ー ン シ ッ プ	2	(2)			
専門コース科目開設単位計		46	26 (2)	18 (2)		
専門コース科目 修得単位		38単位以上				

(注) ◎は必修科目

舞鶴工業高等専門学校専攻科の単位の修得及び修了の認定に関する規程

平成12年4月1日施行

令和7年2月19日一部改正

(趣旨)

第1条 舞鶴工業高等専門学校学則第47条第3項の規定に基づき、専攻科の修了に必要な単位の修得及び修了の認定については、この規程の定めるところによる。

(授業)

第2条 授業は、講義、演習、実験、及び実習のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。

2 授業科目の単位の計算方法は、授業時間及び授業時間外に必要な学習をあわせて45時間とし、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義については、教室内毎週1時間15週をもって1単位とする。
- (2) 演習については、教室内毎週2時間15週をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習については、教室内毎週3時間15週をもって1単位とする。

(履修方法)

第3条 授業科目の履修に当たっては、前期科目については4月末日、後期科目については10月末日までに、別に定める履修届を提出しなければならない。履修届提出後、履修を辞退する場合は、コース長を経て、別に定める履修科目辞退届を学生課教務係へ提出しなければならない。

(試験の種類)

第4条 試験は定期試験、追試験及び再試験とする。

(定期試験)

第5条 定期試験は、各学期末に一定期間定めて実施する。

(追試験)

第6条 追試験は、病気又はけが、その他やむを得ない理由により、定期試験を受けられなかった場合に実施することができる。

(再試験)

第7条 再試験は、59点以下の評価の科目がある場合に実施することができる。再試験の種類は以下の3種類とする。

- (1) 過年度において、当該科目の単位を修得できなかった場合、通常の授業期間に実施するもの
- (2) 修了年度前期において、当該科目の単位を修得できなかった場合、通常の授業期間に実施するもの
- (3) 修了年度の学年末において、修了に必要な単位数、又は学士の学位授与申請に必要な単位数が不足する場合、6単位を上限として実施するもの

(成績評価)

第8条 成績は、授業科目ごとに第4条に規定する試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価する。

2 成績の評価は、次の区分による。

評定	A＋	A	B	C	F
評点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0

3 欠席時間数がその授業科目における出席すべき総時間数の1／3を超える場合、当該科目の評点は59点以下とする。ただし、超過した理由が病気又はけがである場合、専攻科委員会の議を経て、最高を100点とする評価を行うことができる。その際の基準については、準学士課程に準ずる。

4 成績評価に異議ある者は、成績通知書を配付した日から原則、3日以内（土・日・祝日を除く）に教務係に申し出るものとする。

5 成績評価値 Grade Point Average (GPA) については別に定める。

(単位の認定)

第9条 前条第2項の規定に基づき、A＋、A、B及びCに評価された科目については、当該授業科目の単位を修得したものと認定する。

(再履修)

第10条 単位認定されなかった授業科目は、別に定める「再履修願い」を提出し、次年度において再履修することができる。

(大学における単位の認定)

第11条 大学において修得した単位は、10単位（一般科目2単位以内、専門共通科目4単位以内、専門コース科目8単位以内）を超えない範囲で、専攻科における授業科目とみなし、その単位を認定することができる。

(修了の認定)

第12条 校長は、教員会議の議を経て、次の各号の要件をすべて満たした者の修了を認める。

(1) 修了単位数を満たしていること。

(2) 必修科目の単位をすべて修得していること。

(3) 一般科目6単位以上、専門共通科目18単位以上、専門コース科目38単位以上修得していること。

2 第7条第1項第3号の再試験が行われた場合には、再試験に基づく再評価を用いて、前項により修了を認める。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成13年4月1日から施行する。

2 平成12年度に入学した者に係る大学において修得した単位の認定については、改正後の第9条の規定にかかわらず、従前の16単位まで認定することができる。

附 則

この規程は、平成16年12月7日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

2 平成27年3月31日に当該専攻科に在学する者の修了については、第8条の規程にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成27年6月10日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年2月12日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、令和2年9月29日から施行する。

附 則（令和6年2月7日一部改正）

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

附 則（令和7年2月19日一部改正）

この規程は、令和7年4月1日から施行する。

(第3条関係)

令和 年 月 日

令和7年度 履 修 届

舞鶴工業高等専門学校長 殿

総合システム工学専攻

電気電子システム工学コース 1年

学籍番号

氏名

区分		授業科目	単位数	記入欄		担当教員	備考
				前期	後期		
一般科目	一般	◎ 英 語 演 習 I	1	○			
		◎ 英 語 演 習 II	1		○		
		近 代 物 理 学	2				
		単 位 数 小 計					
専門科目	専門共通科目	◎ 応 用 解 析 I	2	○			
		◎ 応 用 解 析 II	2		○		
		画 像 工 学	2				
		先 端 材 料 工 学	2				
		エ ネ ル ギ ー 工 学	2				
		シ ス テ ム 設 計 学	2				
		流 体 工 学 特 論	2				
		単 位 数 小 計					
	専門コース科目	◎ 特 別 研 究 基 礎	8	○	○		前期4, 後期4
		◎ 特 別 実 験	2	○			前期2
		◎ * エンジニアリング・デザイン演習	2		○		
		◎ * システム制御工学	2		○		
		情 報 工 学	2				
		電 磁 気 応 用 工 学	2				
		応 用 通 信 工 学	2				
		* 信 号 処 理 特 論	2				
		* 電 子 回 路 特 論	2				
		* 制 御 工 学 特 論	2				
		電 子 デ バ イ ス 工 学	2				
		イ ン タ ー ン シ ッ プ	2				
			単 位 数 小 計				
		単 位 数 合 計					

- (注) 1. ◎印は必修科目
2. 専門コース科目の * は機械制御システム工学コースと原則同時開講
3. 科目の履修にあたっては、学位申請に必要な科目を確認のうえ、修得すること。

(第3条関係)

令和 年 月 日

令和7年度 履 修 届

舞鶴工業高等専門学校長 殿

総合システム工学専攻

機械制御システム工学コース 1年

学籍番号

氏名

区分		授業科目	単位数	記入欄		担当教員	備考
				前期	後期		
一般科目	一 般	◎ 英 語 演 習 I	1	○			
		◎ 英 語 演 習 II	1		○		
		近 代 物 理 学	2				
		単 位 数 小 計					
専門科目	専 門 共 通 科 目	◎ 応 用 解 析 I	2	○			
		◎ 応 用 解 析 II	2		○		
		画 像 工 学	2				
		先 端 材 料 工 学	2				
		エ ネ ル ギ ー 工 学	2				
		シ ス テ ム 設 計 学	2				
		流 体 工 学 特 論	2				
		単 位 数 小 計					
	専 門 コ ー ス 科 目	◎ 特 別 研 究 基 礎	8	○	○		前期4, 後期4
		◎ 特 別 実 験	2	○			前期2
		◎ * エンジニアリング・デザイン演習	2		○		
		◎ * システム制御工学	2		○		
		材 料 力 学 特 論 I	2				
		材 料 力 学 特 論 II	2				
		* 信 号 処 理 特 論	2				
		流 体 力 学	2				
		* 電 子 回 路 特 論	2				
		* 制 御 工 学 特 論	2				
		エ ネ ル ギ ー 環 境 学	2				
		イ ン タ ー ン シ ッ プ	2				
		単 位 数 小 計					
		単 位 数 合 計					

- (注) 1. ◎印は必修科目
2. 専門コース科目の * は電気電子システム工学コースと原則同時開講
3. 科目の履修にあたっては、学位申請に必要な科目を確認のうえ、修得すること。

(第3条関係)

令和 年 月 日

令和7年度 履 修 届

舞鶴工業高等専門学校長 殿

総合システム工学専攻

建設工学コース 1年

学籍番号

氏名

区分		授業科目	単位数	記入欄		担当教員	備考
				前期	後期		
一般科目	一般	◎ 英 語 演 習 I	1	○			
		◎ 英 語 演 習 II	1		○		
		近 代 物 理 学	2				
		単 位 数 小 計					
専門科目	専門共通科目	◎ 応 用 解 析 I	2	○			
		◎ 応 用 解 析 II	2		○		
		画 像 工 学	2				
		先 端 材 料 工 学	2				
		エ ネ ル ギ ー 工 学	2				
		シ ス テ ム 設 計 学	2				
		流 体 工 学 特 論	2				
		単 位 数 小 計					
	専門コース科目	◎ 特 別 研 究 基 礎	8	○	○		前期4, 後期4
		◎ 特 別 実 験	2	○			前期2
		◎ エンジニアリング・デザイン演習	2		○		
		◎ 構 造 力 学 特 論	2	○			
		ま ち づ く り 学	2				
		耐 震 工 学 特 論	2				
		建 設 材 料 特 論	2				
		水 理 学 特 論	2				
		土 木 数 値 解 析	2				
		設 計 演 習	2				
		イ ン タ ー ン シ ッ プ	2				
		単 位 数 小 計					
単 位 数 合 計							

- (注) 1. ◎印は必修科目
2. 科目の履修にあたっては、学位申請に必要な科目を確認のうえ、修得すること。

(第3条関係)

令和 年 月 日

令和7年度 履修届・再履修届

舞鶴工業高等専門学校長 殿

総合システム工学専攻

電気電子システム工学コース 2年

学籍番号

氏名

区分		授業科目	単位数	記入欄		担当教員	備考
				前期	後期		
一般科目	一般	日 本 文 化 論	2				
		科 学 と 社 会	2				
		単 位 数 小 計					
専門科目	専門共通科目	◎ 特 別 演 習	2		○		
		◎ 技 術 者 論 理	2	○			
		◎ 環 境 工 学 特 論	2	○			
		ネットワークシステム論	2				
		単 位 数 小 計					
	専門コース科目	◎ 特 別 研 究	10	○	○		前期5, 後期5
		パワーエレクトロニクス	2				
		知 識 情 報 工 学	2				
		インターンシップ	2				
		単 位 数 小 計					
	単 位 数 合 計						

- (注) 1. ◎印は必修科目
2. 再履修の場合は、必ず備考欄に「再履修」と記入すること。
3. 科目の履修にあたっては、学習・教育到達度評価基準及び学位申請に必要な科目を確認のうえ、修得すること。

(第3条関係)

令和 年 月 日

令和7年度 履修届・再履修届

舞鶴工業高等専門学校長 殿

総合システム工学専攻

機械制御システム工学コース 2年

学籍番号

氏名

区分		授業科目	単位数	記入欄		担当教員	備考
				前期	後期		
一般科目	一般	日 本 文 化 論	2				
		科 学 と 社 会	2				
		単 位 数 小 計					
専門科目	専門共通科目	◎ 特 別 演 習	2		○		
		◎ 技 術 者 論 理	2	○			
		◎ 環 境 工 学 特 論	2	○			
		ネットワークシステム論	2				
		単 位 数 小 計					
	専門コース科目	◎ 特 別 研 究	10	○	○		前期5, 後期5
		プ ラ ン ト 工 学	2				
		知 識 情 報 工 学	2				
		イ ン タ ー ン シ ッ プ	2				
		単 位 数 小 計					
		単 位 数 合 計					

- (注) 1. ◎印は必修科目
2. 再履修の場合は、必ず備考欄に「再履修」と記入すること。
3. 科目の履修にあたっては、学習・教育到達度評価基準及び学位申請に必要な科目を確認のうえ、修得すること。

(第3条関係)

令和 年 月 日

令和7年度 履修届・再履修届

舞鶴工業高等専門学校長 殿

総合システム工学専攻

建設工学コース 2年

学籍番号

氏名

区分		授業科目	単位数	記入欄		担当教員	備考
				前期	後期		
一般科目	一般	日 本 文 化 論	2				
		科 学 と 社 会	2				
		単 位 数 小 計					
専門科目	専門共通科目	◎ 特 別 演 習	2		○		
		◎ 技 術 者 論 理	2	○			
		◎ 環 境 工 学 特 論	2	○			
		ネットワークシステム論	2				
	単 位 数 小 計						
	専門コース科目	◎ 特 別 研 究	10	○	○		前期5, 後期5
		メンテナンスイ学	2				
		地 盤 工 学 特 論	2				
		建 築 環 境 工 学 特 論	2				
		空 間 デ ザ イ ン 論	2				
		インターンシップ	2				
		単 位 数 小 計					
単 位 数 合 計							

- (注) 1. ◎印は必修科目
2. 再履修の場合は、必ず備考欄に「再履修」と記入すること。
3. 科目の履修にあたっては、学習・教育到達度評価基準及び学位申請に必要な科目を確認のうえ、修得すること。

(第3条関係)

履修科目辞退届

コース長	教務係

令和 年 月 日

担当教員殿

専攻 総合システム工学専攻 年

コース名	コース
基礎コース	基礎コース
応用コース	応用コース
上級コース	上級コース
特級コース	特級コース

氏 名

下記の履修科目について、辞退したいので申請します。

記

科目の種類 (該当科目に○)	辞 退 科 目 名	単 位 数	担 当 教 員 名	了 承 印	備 考
一 般 専門共通 専門コース					
一 般 専門共通 専門コース					
一 般 専門共通 専門コース					
一 般 専門共通 専門コース					

- ◎ 氏名欄は必ず本人が自署してください。
- ◎ 科目担当教員・コース長の印をもらってから、教務係へ提出してください。
- ◎ 提出期限：前期科目…5月末日
後期科目…11月末日

(提出期限が過ぎた場合には受理しないので注意してください。)

大学における単位の専攻科認定申請書

年 月 日

舞鶴工業高等専門学校長 殿

年度入学

総合システム工学専攻

工学コース

氏名

大学において下記の科目を単位取得したので、専攻科の単位として認定いただきますよう成績証明書を添付し、申請します。

記

区分	授 業 科 目 名	単位数	取 得 大 学 名	備 考
一 般 科 目				
専門 共通 科目				
専門 専攻 科目				
単 位 合 計				

※認定出来る単位数は１０単位までとする。

舞鶴工業高等専門学校専攻科の単位の修得及び修了の認定 に関する規程の内規（専攻科課程における追試験）

令和7年2月19日一部改正

令和7年4月1日施行

（趣旨）

第1条 この内規は、舞鶴工業高等専門学校専攻科の単位の修得及び修了の認定に関する規程（以下、「規程」という）第13条に基づき、規程第6条の追試験について、この内規を定める。

（追試験実施の条件）

第2条 下記の理由による場合に限り、専攻科委員会の議を経て、追試験を実施することができる。

（1）病気又はけがによる場合

ただし、医師の診断書の提出が必要である。

（2）公欠扱いの場合

（3）忌引の場合

ただし、忌引の取扱は舞鶴工業高等専門学校学生準則第16条に従う。

（4）その他校長の承認した場合

（追試験の手続き）

第3条 追試験を希望する学生は、「追試験実施願」を速やかに学生課教務係に提出する。

（追試験の実施）

第4条 追試験を実施する担当教員は、速やかに追試験を実施し、当該結果を「追試験実施及び評価報告書」により学生課教務係に提出するものとする。

（追試験の評価）

第5条 追試験の評点は、100点を最高点とする。

追試験実施願（控）

令和 年 月 日

舞鶴工業高等専門学校長 殿

総合システム工学専攻 _____ 年

コース名 _____ 工学コース

氏 名 _____

下記科目について、追試験を受けたいので、よろしくお願いします。

記

科目名	単位数	担当教員名	理由 (下記番号)

理由：1 病気又はけが 2 公欠 3 忌引

4 その他（ ）

（注 1）1 の理由の場合、医師の診断書の提出が必要である。

（注 2）2 の理由の場合、公欠が許可されていることが必要である。

（注 3）3 の理由の場合、忌引の取扱は舞鶴工業高等専門学校学生準則第 16 条に従う。

（注 4）追試験を受けることができる条件については、「専攻科学習の手引」を参照すること。

追試験実施願

コース長	教務係

令和 年 月 日

舞鶴工業高等専門学校長 殿

総合システム工学専攻 _____ 年

コース名 _____ 工学コース

氏 名 _____

下記科目について、追試験を受けたいので、よろしくお願いします。

記

科目名	単位数	担当教員名	理由 (下記番号)

理由：1 病気又はけが 2 公欠 3 忌引

4 その他（ ）

（注 1）1 の理由の場合、医師の診断書の提出が必要である。

（注 2）2 の理由の場合、公欠が許可されていることが必要である。

（注 3）3 の理由の場合、忌引の取扱は舞鶴工業高等専門学校学生準則第 16 条に従う。

（注 4）追試験を受けることができる条件については、「専攻科学習の手引」を参照すること。

舞鶴工業高等専門学校専攻科の単位の修得に関する規程の内規 (専攻科課程における再試験)

令和7年2月19日一部改正

令和7年4月1日施行

(趣旨)

第1条 この内規は、舞鶴工業高等専門学校専攻科の単位の修得及び修了の認定に関する規程（以下、「規程」という）第13条に基づき、規程第7条の再試験について、この内規を定める。

(再試験実施の条件)

第2条 以下の条件をすべて満たしているとき、専攻科委員会の議を経て、規程第7条(1)、(2)に基づく再試験を実施することができる。

イ. 当該科目の履修届を提出していること。

ロ. 当該科目の欠席時間数が出席すべき総時間数の1/3を超えていないこと。ただし、超過した理由が病気又はけがである場合、専攻科委員会の議を経て、再試験の受験を認めることがある。その際の受験の可否の基準については、準学士課程に準ずる。

ただし、別表に示す科目については、規程第7条(1)、(2)に基づく再試験を実施しない。

2 第1項のイ、ロを満たしているとき、専攻科委員会の議を経て、6単位を上限として規程第7条(3)に基づく再試験を実施することができる。

3 その他校長が承認した場合、第1項のイ、ロにかかわらず、専攻科委員会の議を経て再試験を実施することができる。

(再試験の手続き)

第3条 再試験を希望する学生は、「再試験実施願」を学生課教務係に提出する。ただし、規程第7条(1)に基づく再試験の場合は4月末日までに、規程第7条(2)に基づく再試験の場合は10月末日までに提出する（当日が土・日・祝日に当る場合はその前日）。また、規程第7条(3)に基づく再試験の場合は修了年度後期定期試験終了後、専攻科委員会が指定する日までに提出する。

(再試験の実施)

第4条 専攻科委員会は、再試験を実施する担当教員との協議を経て、再試験実施を計画するものとする。

2 再試験を実施する担当教員は、速やかに再試験を実施し、当該結果を「再試験実施及び評価報告書」により学生課教務係に提出するものとする。

(再試験の評価)

第5条 再試験の評点は、60点を最高点とする。

別表 規程第7条(1)、(2)に基づく再試験を実施しない科目

授業科目
特別研究基礎
特別実験
特別演習
エンジニアリング・デザイン演習

(舞鶴工業高等専門学校専攻科の単位の修得に関する規程第7条(1),(2)に基づく再試験用)

再試験実施願(控)

令和 年 月 日

舞鶴工業高等専門学校長 殿

総合システム工学専攻 年
コース名 工学コース
氏 名

下記科目について、再試験を受けたいので、よろしくお願いします。

記

科目名	単位数	担当教員名	理由(下記番号)

理由：1 過年度の未修得科目 2 修了年度の前期未修得科目

- (注1) 1の場合、4月末日までに学生課教務係に提出すること。
(注2) 2の場合、10月末日までに学生課教務係に提出すること。
(注3) 再試験を受けることができる条件については、「専攻科学習の手引・シラバス」を参照すること。

再試験実施願

コース長	教務係

令和 年 月 日

舞鶴工業高等専門学校長 殿

総合システム工学専攻 年
コース名 工学コース
氏 名

下記科目について、再試験を受けたいので、よろしくお願いします。

記

科目名	単位数	担当教員名	理由(下記番号)

理由：1 過年度の未修得科目 2 修了年度の前期未修得科目

- (注1) 1の場合、4月末日までに学生課教務係に提出すること。
(注2) 2の場合、10月末日までに学生課教務係に提出すること。
(注3) 再試験を受けることができる条件については、「専攻科学習の手引・シラバス」を参照すること。

(舞鶴工業高等専門学校専攻科の単位の修得に関する規程第7条(3)に基づく再試験用)

再試験実施願(控)

令和 年 月 日

舞鶴工業高等専門学校長 殿

総合システム工学専攻 年
コース名 工学コース
氏 名

下記科目について、再試験を受けたいので、よろしくお願いします。

記

科目名	単位数	担当教員名

(注1) 再試験を願い出ることができる科目は合計6単位までとする。
(注2) 専攻科委員会が定める期日までに提出すること。

再試験実施願

コース長	教務係

令和 年 月 日

舞鶴工業高等専門学校長 殿

総合システム工学専攻 年
コース名 工学コース
氏 名

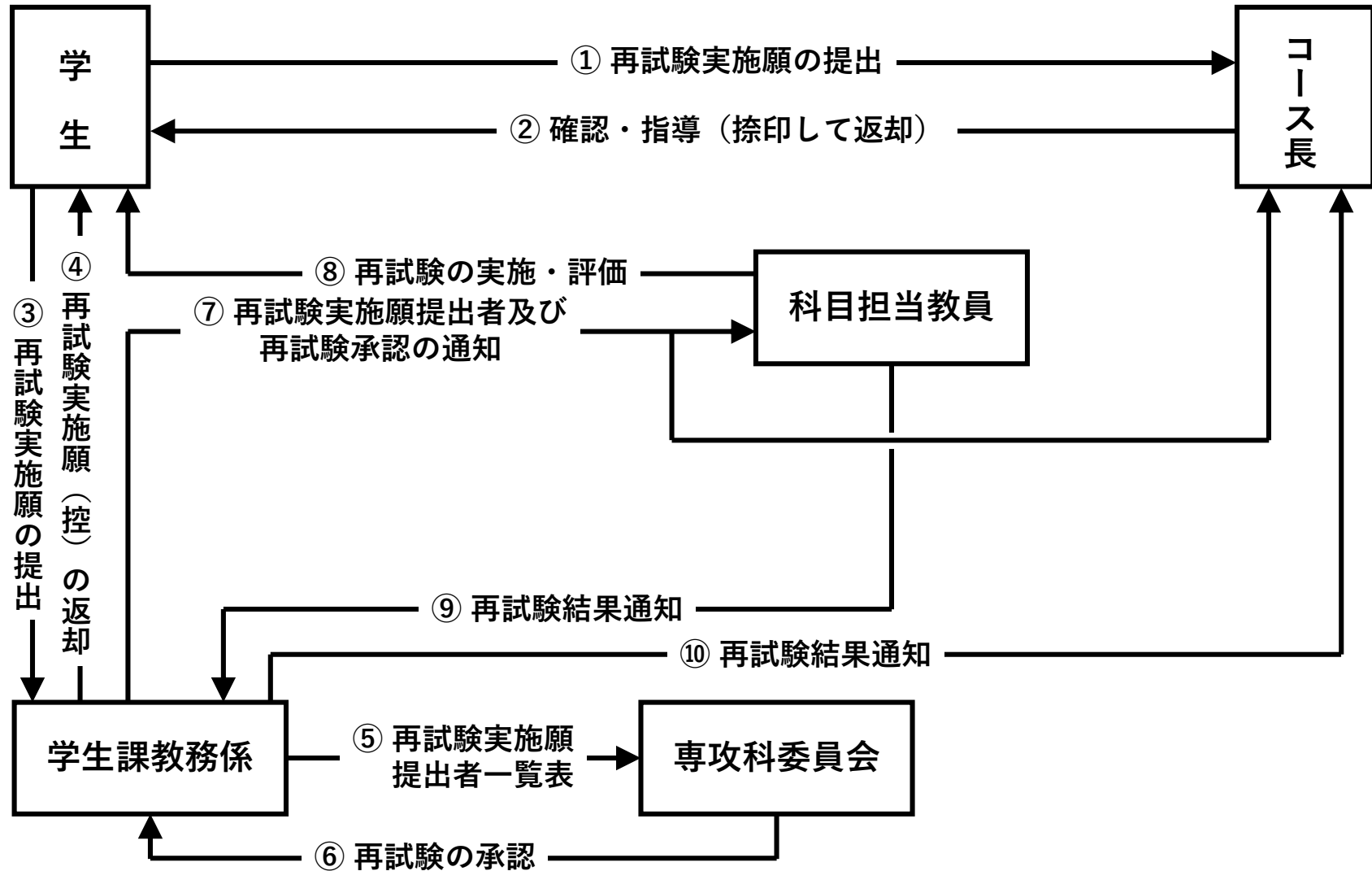
下記科目について、再試験を受けたいので、よろしくお願いします。

記

科目名	単位数	担当教員名

(注1) 再試験を願い出ることができる科目は合計6単位までとする。
(注2) 専攻科委員会が定める期日までに提出すること。

規程第7条(1),(2)に基づく再試験手続き図(専攻科)



(注1) 過年度の未修得科目の場合、4月末日までに学生課教務係に提出すること。

(注2) 修了年度の前期未修得科目の場合、10月末日までに学生課教務係に提出すること。

(注3) 再試験を受けることができる条件については、「専攻科学習の手引・シラバス」を参照すること。

学生の公欠扱いについて（専攻科課程）

- 1 学生準則第15条第1項の規定にかかわらず、次に掲げる事由で欠席・欠課・遅刻又は早退しようとするときは、公欠願を校長に提出し許可を受けなければならない。
 - (1) 就職あるいは進学のための用務上
 - (2) 特別研究・特別研究基礎に関わる学会等発表の場合
 - (3) 課外活動等に関連して公式の試合、行事・会合等に参加する場合
 - (4) 風水震火災その他の非常災害による交通しゃ断
 - (5) 交通機関の事故等の不可抗力の事故の場合
 - (6) 夏季実習等へ参加する場合
 - (7) 校長の承認した資格試験、検定試験等を受ける場合（自動車の免許等に関する場合は認めない。）
 - (8) 骨髄バンク登録者が骨髄を提供する場合
 - (9) その他校長の承認した場合
- 2 公欠扱いと認められた欠席・欠課・遅刻又は早退は、欠席日数・欠課時数に加算しない。また、学則第24条に規定する出席停止の措置を講じた場合も、欠席日数、欠課時数に加算しないものとする。
- 3 公欠願出はコース長（第1項第3号については担当教員を含む。）がやむを得ない事由と認められたものに限る。

平均点の算出方法について

○ 修了年度における平均点の算出方法

1. 修了に必要な単位数 62 単位の内、特別研究基礎及び特別研究 18 単位とインターンシップの 2 単位を除く 42 単位の成績をもって平均点を算出する。まず、履修した必修科目を選び、次に、基準単位数に達するまで、評価点の高点順に履修科目を選ぶ。
2. 前号で選んだ各科目の評価点にそれぞれの科目の単位数を乗じ、それらを総和する。この総和を基準単位数で除した商を平均点とする。

○ 修了しない年度における平均点の算出方法

1. 修了に必要な 62 単位から 2 年次で開設されている必修科目の単位数（16 単位）、および特別研究基礎の 8 単位とインターンシップの 2 単位を除く 36 単位（基準単位数）の成績をもって平均点を算出する。まず、履修した必修科目を選び、次に、基準単位数に達するまで、評価点の高点順に履修科目を選ぶ。
2. 前号で選んだ各科目の評価点にそれぞれの科目の単位数を乗じ、それらを総和する。この総和を基準単位数で除した商を平均点とする。

成績評価値 Grade Point Average (GPA) に関する要項 (準学士課程, 専攻科課程, 教育プログラムに適用)

平成 27 年 6 月 10 日施行
令和 3 年 12 月 8 日一部改正

この要項は、準学士課程においては「舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程」第 3 条第 15 項、専攻科課程においては「舞鶴工業高等専門学校専攻科の単位の修得に関する規程」第 8 条第 5 項でいう成績評価値 Grade Point Average (以下 GPA という)の取り扱いについて定める。

標語で示した科目の評価 (以下 Grade という) に対する Point は以下のとおりとする。

科目の評価区分と Grade 及び Point

評価区分	Grade	Point
100－90点	A＋	4
89－80点	A	3
79－70点	B	2
69－60点	C	1
59点以下	F	0

GPA の算出は次の手順により行う。

1. 平均点に算入する科目を選び、Grade に対する Point を求める。
2. 次の計算式により GPA を算出する。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{各科目の単位数} \times \text{Point}) \text{ の合計}}{\text{平均点に算入する総単位数}} \quad (\text{小数点以下第 3 位を四捨五入})$$

GPA の算出は、本校学生及び各課程に在籍したことのある者から申請があった場合に行うものとする。

なお、平均点に算入する科目および単位数は、準学士課程においては「舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程」第 3 条第 3 項、第 4 項、第 5 項および第 6 項並びに「舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規程の内規」第 11 条、専攻科課程においては「平均点の算出方法について」の定めによる。

舞鶴工業高等専門学校インターンシップの 履修等に関する規程

平成19年4月1日施行

令和3年12月8日最終改正

(趣旨)

第1条 この規程は、舞鶴工業高等専門学校学則第14条第9項及び第43条第4項の規定に基づき、インターンシップの履修等に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 本校が開設するインターンシップは、交流協定書又は覚書（以下「協定書等」という。）に基づく協定先の海外を含む高等教育機関（以下「協定先」という。）における実習又は研修や、企業等の就業体験を通じて専門分野における知識・技術・業務に触れながら実務能力を深め、学生の新たな学習意欲を高めることを目的とする。

(実施機関)

第3条 学生がインターンシップを受ける協定先、国若しくは地方公共団体の機関又は企業等の法人（以下「実施機関」という。）は、当該学科長（専攻科生にあっては当該専攻科コース長）、学級担任及び教務主事と協議の上、校長が選定する。

(実施時期及び実施期間)

第4条 インターンシップの実施時期は、原則として夏季休業期間中とし、実施期間は、準学士課程生にあっては5日以上、専攻科生にあっては10日以上とする。

(申込書の提出)

第5条 インターンシップの履修を受けようとする学生（以下「インターンシップ生」という。）及びその保護者は、インターンシップ申込書（第1号様式）に必要事項を記入の上、学級担任（専攻科生にあっては専攻科コース長。以下同じ。）を経て校長及び実施機関に提出しなければならない。

2 校長が必要と認めた場合には、前項の申込書は、実施機関の指定する申込書等に替えることができるものとする。

(履修心得)

第6条 インターンシップ生は、本校並びに実施機関の定める諸規則及び実施機関の責任者の指示に従って就業を体験するものとする。

(実施証明書の提出)

第7条 インターンシップ生は、インターンシップ実施後、速やかにインターンシップ実施証明書（第2号様式）を学級担任を経て学生課教務係へ提出するものとする。

(成績評価)

第8条 インターンシップの成績評価は、学科長等から提出されたインターンシップ成績評価（第4号様式。以下「成績評価」という。）に基づき、次の各号に掲げる表を総合して行う。

(1) 実施機関による評価

実施機関が作成したインターンシップ実施証明書を成績評価に定める方法により

評価を行い、学級担任が成績評価に記載する。

(2) インターンシップ報告書に対する評価

インターンシップ生が作成したインターンシップ報告書について、成績評価に定める方法により評価を行い、学級担任が成績評価に記載する。

(3) インターンシップ報告会における評価

学級担任は、当該年度当該学科等のインターンシップがすべて終了次第速やかにインターンシップ報告会(以下「報告会」という。)を専門学科所属の教員(専攻科にあっては専攻科担当教員)の中から少なくとも3名以上による評価者を構成のうえ実施するものとする。

なお、報告会は、インターンシップ生1人当たり発表5分、質疑応答3分を標準とする。

また、学科長(又は専攻科コース長)は、報告の実施結果を成績評価に定める方法により評価のうえ速やかに学生課教務係に提出するものとする。

(単位の認定)

第9条 単位の認定は、教務委員会(専攻科生にあっては専攻科委員会)の議を経て校長が行う。

2 インターンシップの単位数は、実施期間が5日～9日の場合を1単位、10日以上の場合を2単位とする。

ただし、認定された年度の翌年度以降において当該学年に留められた場合は、10月末までにインターンシップ単位再認定申請書(第3号様式)により願い出ることにより、再履修する学年の単位として認定される。なお、当該年度にインターンシップを再履修する場合は、前年度以前に認定された単位は無効となる。

3 インターンシップを履修できる学年は、準学士課程では4年及び5年としてそれぞれ2単位までとする。また、専攻科課程では1年又は2年としていずれか2単位までとする。

(保険及び経費)

第10条 インターンシップの実施に要する経費は、原則としてインターンシップ生の負担とし、傷害保険に加入するものとする。

(成績評価表等の保存)

第11条 学科長等から提出された成績評価は、学生課教務係において5年間保存する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、インターンシップの実施に必要な事項は、別に定める。

(事務)

第13条 インターンシップの事務は、学生課教務係において処理する。

インターンシップ申込書

写真貼付欄

学 籍 番 号			
機 関 名	舞鶴工業高等専門学校	(学級担任・ 専攻科コース長) 氏 名	
学科・専攻名 (コース)		学 年	第 学年
ふりがな (本人) 氏 名		生年月日	年 月 日生 (歳)
ふりがな (本人) 連絡先	(〒 -) 電話 () -		
ふりがな (保護者) 氏 名		本人との続柄	
ふりがな (保護者) 連絡先	(〒 -) 電話 () -		
実施機関			
実施期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (実日数 日)		
宿泊の希望	(該当するものを○で囲むこと。) 有 ・ 無		
備 考			

私は、インターンシップ実施にあたり、実施機関の諸規則を遵守のうえ、担当責任者の指示に従い、実習等に専念することを誓います。

本人自署：

(第2号様式)

インターンシップ実施証明書

学籍番号					
機関名	舞鶴工業高等専門学校	学科(専攻)・学年	工学科 ・第 学年 総合システム工学専攻 (コース)		
氏 名		実施期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (実日数 日)		
実施機関					
テーマ					
実施結果	評 価	☐ 優れている ☐ 良 好 ☐ 普 通 ☐ やや劣る ☐ 劣る			
	実習態度 について 総合所見				
	出欠状況 (日 数)	出 席	欠 席	遅 刻	早 退
		日	日	日	日
備 考					

年 月 日

上記のとおりインターンシップを実施したことを証明いたします。

実施機関名 : _____

責任者氏名 : _____ 印

(Form No.2)

Implementation of Internship

Student ID Number					
Institution	National Institute of Technology, Maizuru College	Department / Course Year		Department of Engineering Year /Multidisciplinary Engineering Course	
Name		Period		/ / ~ / / Days	
Institution of Internship					
Theme					
Result of Internship	Evaluation	☐ Excellent ☐ Good ☐ Average ☐ Below Average ☐ Poor			
	General Remarks on the Trainee's Activity				
	Attendance (Days)	Days Attended	Absences	Days Late	Leaving Early
		Days	Days	Days	Days
Remarks for Reference					

Date

This is to certify that we have implemented the internship as stated above.

Implementing Agency :

The Person in Charge : Autograph signature

(第3号様式)

学科長	担 任

インターンシップ単位再認定申請書

年 月 日

舞鶴工業高等専門学校長 殿

学籍番号

学科（専攻） 工学科
・第 学年
専 攻
(コース)

氏 名

下記のとおり、インターンシップを実施したので、当学年における修得単位として再認定いただくよう申請いたします。

記

1. 実施機関

2. 実施期間 年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)

3. 認定単位数 単位

(第4号様式)

年 月 日

教 務 主 事 殿
専 攻 科 長 殿

学科（専攻科コース）長

印

インターンシップ成績評価

標記の件について、下記のとおり成績評価を行いましたので報告します。

記

発表 番号	氏 名	インターンシップ報告会		報告書	実施機関	総合評価	備考
		プレゼンテーション 評価点（平均）	インターンシップ 内容 評価点（平均）				

1. 評価方法及び総合評価について

インターンシップの成績評価は、報告会の評価点、報告書の評価点、及び実施機関の評価点について、合計点を100点法に換算して評価を行う。合計点が60点以上の場合、単位を認定する。

2. 評価項目及び評価点について

2.1 報告会による評価

報告会は、少なくとも3名以上の専門学科に所属する教員（専攻科にあっては専攻科担当教員）をもって実施し、評価点は3名以上の評価者の平均点とする。

【プレゼンテーション】

評価項目

- a 発表資料（形式、構成等）が適切に仕上がっている。
- b 発表ははっきりした口調、堂々とした態度で、発表時間が守られている。
- c 従事したテーマを説明する図表等は分かりやすく、効果的に使われている。（プレゼン技術）
- d 従事したテーマの目的、内容、結果等が良くまとまっている。（組み立て、ストーリー）

- 5点： a～dのうち、4つを満たしている。
- 4点： a～dのうち、3つを満たしている。
- 3点： a～dのうち、2つを満たしている。
- 2点： a～dのうち、1つを満たしている。
- 1点： a～dのいずれも満たしていない。

【インターンシップ内容】

評価項目

- a 従事したテーマの社会的、工学的、技術的意味を理解し、適切に説明できる。
- b 目的達成のための手法、手段を理解し、成果とのつながりを理解している。
〔従事したテーマの目的、プロセス、成果（結論）を理解し、これらを説明できる。〕
- c 質問の意味を的確に理解し、適切な回答ができる。
- d インターンシップとして取り組む姿勢が、技術者としてふさわしい内容とレベルを有している。

- 5点： a～dのうち、4つを満たしている。
- 4点： a～dのうち、3つを満たしている。
- 3点： a～dのうち、2つを満たしている。
- 2点： a～dのうち、1つを満たしている。
- 1点： a～dのいずれも満たしていない。

2.2 報告書による評価

担任、コース長、または、専攻科担当教員が、学生が執筆した報告書の評価を行う。

評価項目

- a 従事したテーマの社会的、工学的、技術的意味を理解し、適切に説明している。
- b テーマの目的達成のための手法、手段を理解し、成果とのつながりを理解している。
〔作業目的、プロセス、成果（結論）を理解し、これらを説明している。〕
- c インターンシップとして取り組む姿勢が技術者としてふさわしい内容とレベルを有している。
- d インターンシップを通じて、インターンシップの具体的な成果が示されている。
〔学生の適正、何か得るべきものがあつた、自分の進路に対する何らかの情報が得られた等の内容となっている。〕

- 5点： a～dのうち、4つを満たしている。
- 4点： a～dのうち、3つを満たしている。
- 3点： a～dのうち、2つを満たしている。
- 2点： a～dのうち、1つを満たしている。
- 1点： a～dのいずれも満たしていない。

2.3 実施機関による評価

実施機関が発行した「インターンシップ実施証明書」の評価を点数（最高5点）に換算する。

- 5点： 優れている
- 4点： 良好
- 3点： 普通
- 2点： やや劣る
- 1点： 劣る

ただし、派遣先によっては、「インターンシップ実施証明書」が発行できない場合があるので、その際は、教務係に申し出ること。

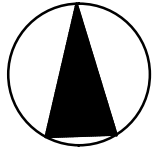
令和 7 年度 行事予定表 （専攻科）

前 期		後 期	
4 月	入学式、後援会総会 教科書販売 始業式、オリエンテーション、身体計測等 1年対象学位申請説明会 2年対象学位申請説明会 交通安全講習会 履修届・再試験実施願提出期限（4/30）	1 0 月	1年特別研究基礎中間発表会 英語デー
5 月	専攻科推薦特別選抜（面接がある場合）	1 1 月	専攻科入試（社会人特別選抜） 本科後期中間（専攻科は特別時間割で授業） 高専祭
6 月	本科前期中間（専攻科は特別時間割で授業） 専攻科入試（学力検査選抜(A・B)）	1 2 月	キャリアセミナー 2年特別研究発表会 冬季休業
7 月		1 月	授業開始 1年特別研究基礎発表会 2年後期期末試験
8 月	本科・専攻科前期期末試験 オープンキャンパス 夏季休業	2 月	本科1～5年・専攻科1年後期期末試験
9 月	試験返却等到達度確認期間 前期授業アンケート 後期授業開始 オープンキャンパス	3 月	春季休業 進路に関する三者懇談会 卒業証書・修了証書授与式

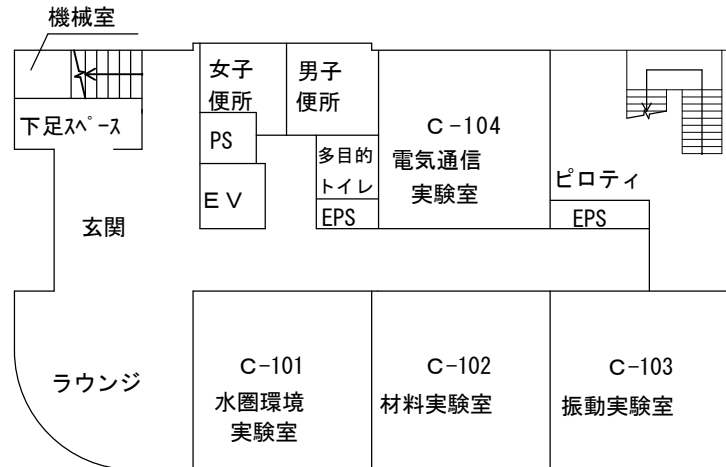
詳細については、舞鶴高専学校HPにて掲載いたします。

専攻科棟

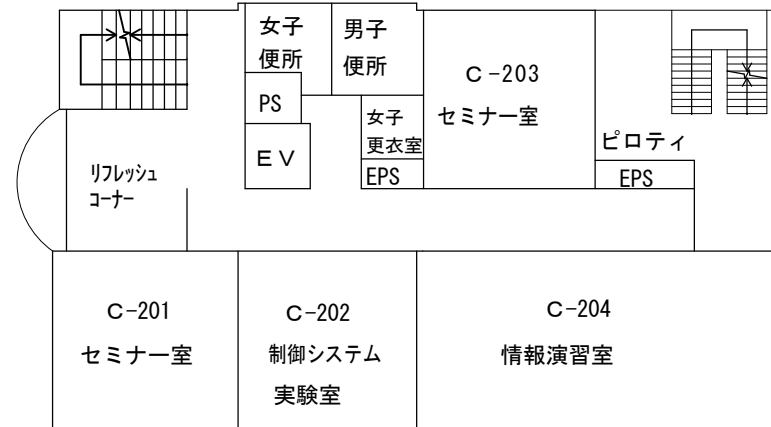
N



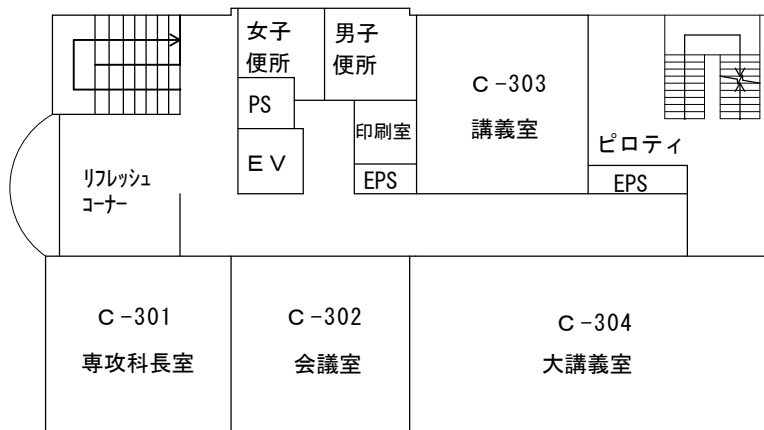
1 階



2 階



3 階



科目区分	科 目 名	必・選	単位数	履修年次	摘 要
専門科目	電気磁気学Ⅰ	必修	1	本科3	A 電気電子工学の基礎となる科目
	電気磁気学Ⅱ	必修	1	本科3	A 電気電子工学の基礎となる科目
	アナログ回路	必修	1	本科3	A 電子工学に関する科目
	デジタル回路	必修	1	本科3	A 電子工学に関する科目
	アナログ信号処理	必修	1	本科3	A 情報通信工学に関する科目
	デジタル信号処理	必修	1	本科3	A 情報通信工学に関する科目
	回路実習	必修	2	本科3	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	情報理論	必修	1	本科3	A 情報通信工学に関する科目
	プログラミング実習	必修	2	本科3	A 情報通信工学に関する科目
	電気情報工学実験Ⅱ A	必修	2	本科3	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	電気情報工学実験Ⅱ B	必修	2	本科3	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	電気磁気学Ⅲ	必修	2	本科4	A 電気電子工学の基礎となる科目
	回路理論	必修	1	本科4	A 電気電子工学の基礎となる科目
	過渡現象論	必修	1	本科4	A 電気電子工学の基礎となる科目
	電子工学Ⅰ	必修	1	本科4	A 電子工学に関する科目
	電子工学Ⅱ	必修	1	本科4	A 電子工学に関する科目
	制御工学Ⅰ	必修	1	本科4	A 電気電子工学の基礎となる科目
	制御工学Ⅱ	必修	1	本科4	A 電気電子工学の基礎となる科目
	電気機器	必修	2	本科4	A 電気工学に関する科目
	論理回路	必修	2	本科4	A 電気電子工学の基礎となる科目
	通信工学	必修	2	本科4	A 情報通信工学に関する科目
	ネットワーク論	必修	2	本科4	A 情報通信工学に関する科目
	電気情報工学実験Ⅲ A	必修	2	本科4	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	電気情報工学実験Ⅲ B	必修	2	本科4	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	創造工学	必修	1	本科4	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	工学基礎研究	必修	1	本科4	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	電磁気計測	必修	2	本科5	A 電気電子工学の基礎となる科目
	エネルギー工学Ⅰ	必修	1	本科5	A 電気工学に関する科目
	エネルギー工学Ⅱ	必修	1	本科5	A 電気工学に関する科目
	オペレーティングシステム	必修	2	本科5	A 情報通信工学に関する科目
	情報システム論	必修	2	本科5	A 情報通信工学に関する科目
	電気情報工学実験Ⅳ A	必修	2	本科5	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	電気情報工学実験Ⅳ B	必修	2	本科5	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	卒業研究	必修	10	本科5	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	伝送工学	選択	2	本科5	A 情報通信工学に関する科目
	半導体工学	選択	2	本科5	A 電子工学に関する科目
	データ構造とアルゴリズム	選択	2	本科5	A 情報通信工学に関する科目
	映像メディア工学	選択	2	本科5	A 情報通信工学に関する科目
	ネットワークシステム論	選択	2	専2	A 情報通信工学に関する科目
	画像工学	選択	2	専1	A 情報通信工学に関する科目
	特別研究基礎	必修	8	専1	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	特別実験	必修	2	専1	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	システム制御工学	必修	2	専1	A 電気電子工学の基礎となる科目
	パワーエレクトロニクス	選択	2	専2	A 電気工学に関する科目
	情報工学	選択	2	専1	A 情報通信工学に関する科目
	電磁気応用工学	選択	2	専1	A 情報通信工学に関する科目
	応用通信工学	選択	2	専1	A 情報通信工学に関する科目
	信号処理特論	選択	2	専1	A 情報通信工学に関する科目
	電子回路特論	選択	2	専1	A 電子工学に関する科目
	制御工学特論	選択	2	専1	A 電気電子工学の基礎となる科目
	知識情報工学	選択	2	専2	A 情報通信工学に関する科目
	電子デバイス工学	選択	2	専1	A 電子工学に関する科目

科目区分	科 目 名	必・選	単位数	履修年次	摘 要
関連科目	応用数学Ⅰ A	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学Ⅰ B	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学Ⅱ A	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学Ⅱ B	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	物理Ⅲ	選択必修	2	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	化学Ⅲ	選択必修	2	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	近代物理学	選択	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
	特別演習	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	応用解析Ⅰ	必修	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
	応用解析Ⅱ	必修	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
	技術者倫理	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	環境工学特論	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	先端材料工学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	エネルギー工学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	システム設計学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	流体工学特論	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	エンジニアリング・デザイン演習	必修	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
学修総まとめ科目	特別研究	必修	10	専2	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
専攻外科目	保健体育Ⅳ	選択	2	本科4	専攻外科目
	総合英語Ⅳ A	必修	2	本科4	専攻外科目
	総合英語Ⅳ B	必修	2	本科4	専攻外科目
	現代社会	必修	2	本科4	専攻外科目
	哲学	必修	2	本科4	専攻外科目
	法学	必修	2	本科4	専攻外科目
	日本語 C	留学生必修	2	本科4	専攻外科目
	日本語 D	留学生必修	2	本科4	専攻外科目
	インターンシップ	選択	1	本科4・5	専攻外科目
	インターンシップ	選択	2	本科4・5	専攻外科目
	日本語 E	留学生必修	2	本科5	専攻外科目
	日本語 F	留学生必修	2	本科5	専攻外科目
	保健体育 V	選択	2	本科5	専攻外科目
	総合英語 V	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅰ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅱ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅲ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅳ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅰ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅱ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅲ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅳ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	英語演習Ⅰ	必修	1	専1	専攻外科目
	英語演習Ⅱ	必修	1	専1	専攻外科目
	日本文化論	選択	2	専2	専攻外科目
	科学と社会	選択	2	専2	専攻外科目
	インターンシップ	選択	2	専1・2	専攻外科目

科目区分	科目名	必・選	単位数	履修年次	摘 要
専門科目	電子回路Ⅰ	必修	1	本科3	A 電子工学に関する科目
	電子回路Ⅱ	必修	1	本科3	A 電子工学に関する科目
	プログラミングⅡ	必修	1	本科3	A 情報通信工学に関する科目
	プログラミングⅢ	必修	1	本科3	A 情報通信工学に関する科目
	組み込みシステムⅠ	必修	1	本科3	A 電子工学に関する科目
	組み込みシステムⅡ	必修	1	本科3	A 電子工学に関する科目
	制御工学Ⅰ	必修	1	本科3	A 電気工学に関する科目
	電子制御実験	必修	4	本科3	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	電子回路Ⅲ	必修	2	本科4	A 電子工学に関する科目
	電気磁気学Ⅰ	必修	1	本科4	A 電気電子工学の基礎となる科目
	電気磁気学Ⅱ	必修	1	本科4	A 電気電子工学の基礎となる科目
	制御工学Ⅱ	必修	1	本科4	A 電気工学に関する科目
	制御工学Ⅲ	必修	2	本科4	A 電気工学に関する科目
	機械工学実験	必修	2	本科4	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	電子回路Ⅳ	必修	1	本科5	A 電子工学に関する科目
	数値計算法	必修	2	本科5	A 情報通信工学に関する科目
	システム制御	必修	2	本科5	A 電気電子工学の基礎となる科目
	計測工学	必修	2	本科5	A 電気電子工学の基礎となる科目
	ロボットビジョン	必修	2	本科5	A 情報通信工学に関する科目
	制御系設計演習	必修	1	本科5	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	回路設計演習	必修	1	本科5	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	制御工学実験	必修	2	本科5	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	卒業研究	必修	10	本科5	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	ロボティクスⅢ	選択	2	本科5	A 電気工学に関する科目
	情報学	選択	2	本科5	A 情報通信工学に関する科目
	ネットワークシステム論	選択	2	専2	A 情報通信工学に関する科目
	画像工学	選択	2	専1	A 情報通信工学に関する科目
	特別研究基礎	必修	8	専1	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	特別実験	必修	2	専1	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
	システム制御工学	必修	2	専1	A 電気電子工学の基礎となる科目
	パワーエレクトロニクス	選択	2	専2	A 電気工学に関する科目
	情報工学	選択	2	専1	A 情報通信工学に関する科目
	電磁気応用工学	選択	2	専1	A 情報通信工学に関する科目
	応用通信工学	選択	2	専1	A 情報通信工学に関する科目
	信号処理特論	選択	2	専1	A 情報通信工学に関する科目
	電子回路特論	選択	2	専1	A 電子工学に関する科目
	制御工学特論	選択	2	専1	A 電気工学に関する科目
	知識情報工学	選択	2	専2	A 情報通信工学に関する科目
	電子デバイス工学	選択	2	専1	A 電子工学に関する科目
関連科目	応用数学ⅠA	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学ⅠB	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学ⅡA	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学ⅡB	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	水力学Ⅰ	必修	1	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	水力学Ⅱ	必修	1	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	熱力学Ⅰ	必修	1	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	熱力学Ⅱ	必修	1	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	材料力学Ⅰ	必修	1	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	材料力学Ⅱ	必修	1	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	振動工学Ⅰ	必修	1	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	ロボティクスⅠ	必修	2	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	ロボティクスⅡ	必修	2	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	創造設計プロジェクト	必修	2	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	物理Ⅲ	選択必修	2	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	化学Ⅲ	選択必修	2	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	振動工学Ⅱ	必修	1	本科5	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	近代物理学	選択	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
	特別演習	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	応用解析Ⅰ	必修	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
	応用解析Ⅱ	必修	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
	技術者倫理	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	環境工学特論	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	先端材料工学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	エネルギー工学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	システム設計学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	流体工学特論	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	エンジニアリング・デザイン演習	必修	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目

科目区分	科 目 名	必・選	単位数	履修年次	摘 要
学修総まとめ科目	特別研究	必修	10	専2	B 電気電子工学に関する実験・実習科目
専攻外科目	保健体育Ⅳ	選択	2	本科4	専攻外科目
	総合英語ⅣA	必修	2	本科4	専攻外科目
	総合英語ⅣB	必修	2	本科4	専攻外科目
	現代社会	必修	2	本科4	専攻外科目
	哲学	必修	2	本科4	専攻外科目
	法学	必修	2	本科4	専攻外科目
	日本語C	留学生必修	2	本科4	専攻外科目
	日本語D	留学生必修	2	本科4	専攻外科目
	インターンシップ	選択	1	本科4・5	専攻外科目
	インターンシップ	選択	2	本科4・5	専攻外科目
	日本語E	留学生必修	2	本科5	専攻外科目
	日本語F	留学生必修	2	本科5	専攻外科目
	保健体育Ⅴ	選択	2	本科5	専攻外科目
	総合英語Ⅴ	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論ⅠA	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論ⅡA	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論ⅢA	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論ⅣA	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論ⅠB	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論ⅡB	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論ⅢB	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論ⅣB	選択	2	本科5	専攻外科目
	英語演習Ⅰ	必修	1	専1	専攻外科目
	英語演習Ⅱ	必修	1	専1	専攻外科目
	日本文化論	選択	2	専2	専攻外科目
	科学と社会	選択	2	専2	専攻外科目
	インターンシップ	選択	2	専1・2	専攻外科目

科目区分	科 目 名	必・選	単位数	履修年次	摘 要
専門科目	力学基礎Ⅱ	必修	1	本科3	A 機械力学・制御に関する科目
	機械設計法Ⅰ	必修	1	本科3	A 設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目
	機械設計法Ⅱ	必修	1	本科3	A 設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目
	加工学Ⅱ	必修	1	本科3	A 機械工作・生産工学に関する科目
	入門機械電気電子情報工学	必修	1	本科3	A 設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目
	材料力学ⅠA	必修	1	本科3	A 機械材料・材料力学に関する科目
	材料力学ⅠB	必修	1	本科3	A 機械材料・材料力学に関する科目
	材料学Ⅰ	必修	1	本科3	A 機械材料・材料力学に関する科目
	材料学Ⅱ	必修	1	本科3	A 機械材料・材料力学に関する科目
	機構学	必修	1	本科3	A 設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目
	工作実習Ⅱ	必修	4	本科3	B 機械工学に関する実験・実習科目
	設計製図ⅡA	必修	1	本科3	B 機械工学に関する実験・実習科目
	設計製図ⅡB	必修	1	本科3	B 機械工学に関する実験・実習科目
	機械力学Ⅰ	必修	1	本科4	A 機械力学・制御に関する科目
	材料力学ⅡA	必修	1	本科4	A 機械材料・材料力学に関する科目
	材料力学ⅡB	必修	1	本科4	A 機械材料・材料力学に関する科目
	流れ学Ⅰ	必修	1	本科4	A 流体工学に関する科目
	流れ学Ⅱ	必修	1	本科4	A 流体工学に関する科目
	熱力学Ⅰ	必修	1	本科4	A 熱工学に関する科目
	熱力学Ⅱ	必修	1	本科4	A 熱工学に関する科目
	設計製図Ⅲ	必修	2	本科4	B 機械工学に関する実験・実習科目
	機械工学実験Ⅰ	必修	2	本科4	B 機械工学に関する実験・実習科目
	創造設計製作	必修	3	本科4	B 機械工学に関する実験・実習科目
	システム工学	必修	2	本科4	A 機械工作・生産工学に関する科目
	計測概論	必修	2	本科4	A 機械力学・制御に関する科目
	設計製図Ⅳ	必修	2	本科5	B 機械工学に関する実験・実習科目
	機械工学実験Ⅱ	必修	2	本科5	B 機械工学に関する実験・実習科目
	卒業研究	必修	12	本科5	B 機械工学に関する実験・実習科目
	加工学Ⅲ	選択	1	本科5	A 機械工作・生産工学に関する科目
	機械力学Ⅱ	選択	1	本科5	A 機械力学・制御に関する科目
	材料力学Ⅲ	選択	1	本科5	A 機械材料・材料力学に関する科目
	流体工学	選択	1	本科5	A 流体工学に関する科目
	熱工学	選択	1	本科5	A 熱工学に関する科目
	制御工学Ⅰ	必修	1	本科5	A 機械力学・制御に関する科目
	制御工学Ⅱ	必修	1	本科5	A 機械力学・制御に関する科目
	計算機援用工学	選択	1	本科5	A 知能機械学・機械システムに関する科目
	設計工学	選択	1	本科5	A 設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目
	知能機械工学	選択	1	本科5	A 知能機械学・機械システムに関する科目
	医工学	選択	1	本科5	A 知能機械学・機械システムに関する科目
	先端材料工学	選択	2	専1	A 機械材料・材料力学に関する科目
	エネルギー工学	選択	2	専1	A 熱工学に関する科目
	システム設計学	選択	2	専1	A 機械工作・生産工学に関する科目
	流体工学特論	選択	2	専1	A 設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目
	特別研究基礎	必修	8	専1	B 機械工学に関する実験・実習科目
	特別実験	必修	2	専1	B 機械工学に関する実験・実習科目
	システム制御工学	必修	2	専1	A 機械力学・制御に関する科目
	材料力学特論Ⅰ	選択	2	専1	A 機械材料・材料力学に関する科目
	材料力学特論Ⅱ	選択	2	専1	A 機械材料・材料力学に関する科目
	流体力学	選択	2	専1	A 流体工学に関する科目
	プラント工学	選択	2	専2	A 機械工作・生産工学に関する科目
	制御工学特論	選択	2	専1	A 機械力学・制御に関する科目
	エネルギー環境学	選択	2	専1	A 熱工学に関する科目

科目区分	科 目 名	必・選	単位数	履修年次	摘 要
関連科目	応用数学ⅠA	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学ⅠB	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学ⅡA	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学ⅡB	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	電気工学Ⅰ	必修	1	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	電気工学Ⅱ	必修	1	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	物理Ⅲ	必修	2	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	インターンシップ	選択	1	本科4・5	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	工業英語	選択	1	本科5	関連 工学の基礎となる科目
	マリンエンジニアリング	選択	2	本科5	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	電子物理	選択	2	本科5	関連 工学の基礎となる科目
	特別演習	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	応用解析Ⅰ	必修	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
	応用解析Ⅱ	必修	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
	技術者倫理	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	環境工学特論	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	ネットワークシステム論	選択	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	画像工学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	エンジニアリング・デザイン演習	必修	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	信号処理特論	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	電子回路特論	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	知識情報工学	選択	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	インターンシップ	選択	2	専1・2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
学修総まとめ科目	特別研究	必修	10	専2	B 機械工学に関する実験・実習科目
専攻外科目	保健体育Ⅳ	選択	2	本科4	専攻外科目
	総合英語ⅣA	必修	1	本科4	専攻外科目
	総合英語ⅣB	必修	1	本科4	専攻外科目
	実践英会話Ⅰ	必修	1	本科4	専攻外科目
	経済学	必修	1	本科4	専攻外科目
	哲学	必修	1	本科4	専攻外科目
	法学	必修	2	本科4	専攻外科目
	日本語C	選択	1	本科4	専攻外科目
	日本語D	選択	1	本科4	専攻外科目
	国語国文Ⅰ	選択	1	本科4	専攻外科目
	ドイツ語Ⅰ	選択	1	本科4	専攻外科目
	中国語Ⅰ	選択	1	本科4	専攻外科目
	宗教と「こころ」Ⅰ	選択	1	本科4	専攻外科目
	国際金融論Ⅰ	選択	1	本科4	専攻外科目
	国語国文Ⅱ	選択	1	本科4	専攻外科目
	ドイツ語Ⅱ	選択	1	本科4	専攻外科目
	中国語Ⅱ	選択	1	本科4	専攻外科目
	宗教と「こころ」Ⅱ	選択	1	本科4	専攻外科目
	国際金融論Ⅱ	選択	1	本科4	専攻外科目
	保健体育Ⅴ	選択	2	本科5	専攻外科目
	総合英語ⅤA	必修	1	本科5	専攻外科目
	総合英語ⅤB	必修	1	本科5	専攻外科目
	実践英会話Ⅱ	選択	1	本科5	専攻外科目
	日本語E	選択	1	本科5	専攻外科目
	日本語F	選択	1	本科5	専攻外科目
	ドイツ文化論Ⅰ	選択	1	本科5	専攻外科目
	韓国語Ⅰ	選択	1	本科5	専攻外科目
	現代社会と宗教Ⅰ	選択	1	本科5	専攻外科目
	現代日本の政治・経済と法Ⅰ	選択	1	本科5	専攻外科目
	地域学Ⅰ	選択	1	本科5	専攻外科目
	ドイツ文化論Ⅱ	選択	1	本科5	専攻外科目
	韓国語Ⅱ	選択	1	本科5	専攻外科目
	現代社会と宗教Ⅱ	選択	1	本科5	専攻外科目
	現代日本の政治・経済と法Ⅱ	選択	1	本科5	専攻外科目
	地域学Ⅱ	選択	1	本科5	専攻外科目
	英語演習Ⅰ	必修	1	専1	専攻外科目
	英語演習Ⅱ	必修	1	専1	専攻外科目
	日本文化論	選択	2	専2	専攻外科目
	科学と社会	選択	2	専2	専攻外科目
	近代物理学	選択	2	専1	専攻外科目

科目区分	科 目 名	必・選	単位数	履修年次	摘 要
専門科目	力学Ⅱ	必修	1	本科3	A 機械力学・制御に関する科目
	制御工学Ⅰ	必修	1	本科3	A 機械力学・制御に関する科目
	C A D演習Ⅰ	必修	1	本科3	B 機械工学に関する実験・実習科目
	C A D演習Ⅱ	必修	1	本科3	B 機械工学に関する実験・実習科目
	水力学Ⅰ	必修	1	本科4	A 流体工学に関する科目
	水力学Ⅱ	必修	1	本科4	A 流体工学に関する科目
	熱力学Ⅰ	必修	1	本科4	A 熱工学に関する科目
	熱力学Ⅱ	必修	1	本科4	A 熱工学に関する科目
	材料力学Ⅰ	必修	1	本科4	A 機械材料・材料力学に関する科目
	材料力学Ⅱ	必修	1	本科4	A 機械材料・材料力学に関する科目
	振動工学Ⅰ	必修	1	本科4	A 機械力学・制御に関する科目
	制御工学Ⅱ	必修	1	本科4	A 機械力学・制御に関する科目
	制御工学Ⅲ	必修	2	本科4	A 機械力学・制御に関する科目
	ロボティクスⅠ	必修	2	本科4	A 機械力学・制御に関する科目
	ロボティクスⅡ	必修	2	本科4	A 機械力学・制御に関する科目
	創造設計プロジェクト	必修	2	本科4	B 機械工学に関する実験・実習科目
	振動工学Ⅱ	必修	1	本科5	A 機械力学・制御に関する科目
	数値計算法	必修	2	本科5	A 知能機械学・機械システムに関する科目
	システム制御	必修	2	本科5	A 機械力学・制御に関する科目
	計測工学	必修	2	本科5	A 機械力学・制御に関する科目
	制御系設計演習	必修	1	本科5	B 機械工学に関する実験・実習科目
	制御工学実験	必修	2	本科5	B 機械工学に関する実験・実習科目
	卒業研究	必修	10	本科5	B 機械工学に関する実験・実習科目
	先端材料工学	選択	2	専1	A 機械材料・材料力学に関する科目
	エネルギー工学	選択	2	専1	A 熱工学に関する科目
	システム設計学	選択	2	専1	A 機械工作・生産工学に関する科目
	流体工学特論	選択	2	専1	A 設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目
	特別研究基礎	必修	8	専1	B 機械工学に関する実験・実習科目
	特別実験	必修	2	専1	B 機械工学に関する実験・実習科目
	システム制御工学	必修	2	専1	A 機械力学・制御に関する科目
	材料力学特論Ⅰ	選択	2	専1	A 機械材料・材料力学に関する科目
	材料力学特論Ⅱ	選択	2	専1	A 機械材料・材料力学に関する科目
	流体力学	選択	2	専1	A 流体工学に関する科目
	プラント工学	選択	2	専2	A 機械工作・生産工学に関する科目
	制御工学特論	選択	2	専1	A 機械力学・制御に関する科目
	エネルギー環境学	選択	2	専1	A 熱工学に関する科目
関連科目	電子回路Ⅰ	必修	1	本科3	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	電子回路Ⅱ	必修	1	本科3	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	プログラミングⅡ	必修	1	本科3	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	プログラミングⅢ	必修	1	本科3	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	組込みシステムⅠ	必修	1	本科3	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	組込みシステムⅡ	必修	1	本科3	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	力学Ⅰ	必修	1	本科3	関連 工学の基礎となる科目
	物理Ⅲ	選択必修	2	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	化学Ⅲ	選択必修	2	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学Ⅰ A	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学Ⅰ B	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学Ⅱ A	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学Ⅱ B	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	電子回路Ⅲ	必修	2	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	電気磁気学Ⅰ	必修	1	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	電気磁気学Ⅱ	必修	1	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	機械工学実験	必修	2	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	インターンシップ	選択	1	本科4・5	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	インターンシップ	選択	2	本科4・5	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	回路設計演習	必修	1	本科5	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	電子回路Ⅳ	必修	1	本科5	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	ロボットビジョン	必修	2	本科5	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	ロボティクスⅢ	選択	2	本科5	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	情報学	選択	2	本科5	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	特別演習	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	応用解析Ⅰ	必修	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
	応用解析Ⅱ	必修	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
	技術者倫理	必修	2	専2	関連 工学の基礎となる科目
	環境工学特論	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	ネットワークシステム論	選択	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	画像工学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	エンジニアリング・デザイン演習	必修	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	信号処理特論	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	電子回路特論	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	知識情報工学	選択	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	インターンシップ	選択	2	専1・2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目

科目区分	科 目 名	必・選	単位数	履修年次	摘 要
学修総まとめ科目	特別研究	必修	10	専2	B 機械工学に関する実験・実習科目
専攻外科目	保健体育Ⅳ	選択	2	本科4	専攻外科目
	総合英語Ⅳ A	必修	2	本科4	専攻外科目
	総合英語Ⅳ B	必修	2	本科4	専攻外科目
	現代社会	必修	2	本科4	専攻外科目
	哲学	必修	2	本科4	専攻外科目
	法学	必修	2	本科4	専攻外科目
	日本語 C	留学生必修	2	本科4	専攻外科目
	日本語 D	留学生必修	2	本科4	専攻外科目
	日本語 E	留学生必修	2	本科5	専攻外科目
	日本語 F	留学生必修	2	本科5	専攻外科目
	保健体育Ⅴ	選択	2	本科5	専攻外科目
	総合英語Ⅴ	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅰ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅱ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅲ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅳ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅰ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅱ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅲ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅳ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	英語演習Ⅰ	必修	1	専1	専攻外科目
	英語演習Ⅱ	必修	1	専1	専攻外科目
	日本文化論	選択	2	専2	専攻外科目
	科学と社会	選択	2	専2	専攻外科目
	近代物理学	選択	2	専1	専攻外科目

科目区分	科 目 名	必・選	単位数	履修年次	摘 要
専門科目	構造力学Ⅱ A	必修	1	本科3	A 構造・材料に関する科目
	構造力学Ⅱ B	必修	1	本科3	A 構造・材料に関する科目
	建設材料学	必修	1	本科3	A 構造・材料に関する科目
	水理学Ⅰ A	必修	1	本科3	A 水工・環境に関する科目
	水理学Ⅰ B	必修	1	本科3	A 水工・環境に関する科目
	地盤工学Ⅰ A	必修	1	本科3	A 土質・施工に関する科目
	地盤工学Ⅰ B	必修	1	本科3	A 土質・施工に関する科目
	都市計画	必修	1	本科3	A 都市・景観に関する科目
	建設システム工学実験Ⅰ A	必修	1	本科3	B 土木工学に関する実験・実習科目
	建設システム工学実験Ⅰ B	必修	1	本科3	B 土木工学に関する実験・実習科目
	建設製図制作	必修	3	本科3	B 土木工学に関する実験・実習科目
	構造力学Ⅲ A	必修	1	本科4	A 構造・材料に関する科目
	構造力学Ⅲ B	必修	1	本科4	A 構造・材料に関する科目
	コンクリート構造学Ⅰ	必修	1	本科4	A 構造・材料に関する科目
	コンクリート構造学Ⅱ	必修	2	本科4	A 構造・材料に関する科目
	地盤工学Ⅱ	必修	2	本科4	A 土質・施工に関する科目
	環境工学Ⅰ	必修	2	本科4	A 水工・環境に関する科目
	建設設計製図Ⅰ	必修	2	本科4	B 土木工学に関する実験・実習科目
	水理学Ⅱ	必修	2	本科4	A 水工・環境に関する科目
	河川工学	必修	2	本科4	A 水工・環境に関する科目
	土木施工Ⅰ	必修	1	本科4	A 土質・施工に関する科目
	環境衛生学Ⅰ	必修	1	本科4	A 水工・環境に関する科目
	環境衛生学Ⅱ	必修	1	本科4	A 水工・環境に関する科目
	土木計画	必修	2	本科4	A 計画・交通に関する科目
	建設システム工学実験Ⅱ A	必修	1	本科4	B 土木工学に関する実験・実習科目
	建設システム工学実験Ⅱ B	必修	1	本科4	B 土木工学に関する実験・実習科目
	鋼構造学	必修	2	本科5	A 構造・材料に関する科目
	応用測量学Ⅰ	必修	1	本科5	A 計画・交通に関する科目
	応用測量学Ⅱ	必修	1	本科5	A 計画・交通に関する科目
	建設設計製図Ⅱ	必修	2	本科5	B 土木工学に関する実験・実習科目
	卒業研究・卒業設計	必修	10	本科5	B 土木工学に関する実験・実習科目
	海岸工学	必修	1	本科5	A 水工・環境に関する科目
	土木施工Ⅱ	必修	1	本科5	A 土質・施工に関する科目
	環境工学Ⅱ A	必修	1	本科5	A 水工・環境に関する科目
	環境工学Ⅱ B	必修	1	本科5	A 水工・環境に関する科目
	応用構造力学	選択	1	本科5	A 構造・材料に関する科目
	耐震工学	選択	2	本科5	A 構造・材料に関する科目
	地盤防災工学	選択	1	本科5	A 土質・施工に関する科目
	特別研究基礎	必修	8	専1	B 土木工学に関する実験・実習科目
	特別実験	必修	2	専1	B 土木工学に関する実験・実習科目
	構造力学特論	必修	2	専1	A 構造・材料に関する科目
	まちづくり学	選択	2	専1	A 都市・景観に関する科目
	耐震工学特論	選択	2	専1	A 構造・材料に関する科目
	建設材料特論	選択	2	専1	A 構造・材料に関する科目
	メンテナンス工学	選択	2	専2	A 構造・材料に関する科目
	地盤工学特論	選択	2	専2	A 土質・施工に関する科目
	水理学特論	選択	2	専1	A 水工・環境に関する科目
関連科目	応用数学Ⅰ A	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学Ⅰ B	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学Ⅱ A	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学Ⅱ B	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	建築史	必修	2	本科4	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	インターンシップ	選択	1	本科4・5	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	インターンシップ	選択	2	本科4・5	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	情報処理	必修	1	本科5	関連 工学の基礎となる科目
	特別演習	選択	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	応用解析Ⅰ	必修	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
	応用解析Ⅱ	必修	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
	技術者倫理	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	環境工学特論	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	ネットワークシステム論	選択	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	画像工学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	先端材料工学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	エネルギー工学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	システム設計学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	流体工学特論	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	エンジニアリング・デザイン演習	必修	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	建築環境工学特論	選択	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	土木数値解析	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	空間デザイン論	選択	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	設計演習	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	インターンシップ	選択	2	専1・2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目

科目区分	科 目 名	必・選	単位数	履修年次	摘 要
学修総まとめ科目	特別研究	必修	10	専2	B 土木工学に関する実験・実習科目
専攻外科目	保健体育Ⅳ	選択	2	本科4	専攻外科目
	総合英語Ⅳ A	必修	2	本科4	専攻外科目
	総合英語Ⅳ B	必修	2	本科4	専攻外科目
	現代社会	必修	2	本科4	専攻外科目
	哲学	必修	2	本科4	専攻外科目
	法学	必修	2	本科4	専攻外科目
	日本語 C	留学生必修	2	本科4	専攻外科目
	日本語 D	留学生必修	2	本科4	専攻外科目
	物理Ⅲ	必修	1	本科4	専攻外科目
	日本語 E	留学生必修	2	本科5	専攻外科目
	日本語 F	留学生必修	2	本科5	専攻外科目
	保健体育Ⅴ	選択	2	本科5	専攻外科目
	総合英語Ⅴ	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅰ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅱ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅲ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅳ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅰ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅱ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅲ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅳ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	英語演習Ⅰ	必修	1	専1	専攻外科目
	英語演習Ⅱ	必修	1	専1	専攻外科目
	日本文化論	選択	2	専2	専攻外科目
	科学と社会	選択	2	専2	専攻外科目
	近代物理学	選択	2	専1	専攻外科目

科目区分	科 目 名	必・選	単位数	履修年次	摘 要
専門科目	構造力学Ⅱ A	必修	1	本科3	A 建築構造に関する科目
	構造力学Ⅱ B	必修	1	本科3	A 建築構造に関する科目
	建築一般構造	必修	1	本科3	A 建築構法・材料・施工に関する科目
	建設材料学	必修	1	本科3	A 建築構法・材料・施工に関する科目
	地盤工学Ⅰ A	必修	1	本科3	A 建築構造に関する科目
	地盤工学Ⅰ B	必修	1	本科3	A 建築構造に関する科目
	都市計画	必修	1	本科3	A 都市計画に関する科目
	建築計画Ⅰ	必修	1	本科3	A 建築計画に関する科目
	建設システム工学実験Ⅰ A	必修	1	本科3	B 建築学に関する実験・実習科目
	建設システム工学実験Ⅰ B	必修	1	本科3	B 建築学に関する実験・実習科目
	建設製図制作	必修	3	本科3	B 建築設計・製図に関する科目
	構造力学Ⅲ A	必修	1	本科4	A 建築構造に関する科目
	構造力学Ⅲ B	必修	1	本科4	A 建築構造に関する科目
	コンクリート構造学Ⅰ	必修	1	本科4	A 建築構造に関する科目
	コンクリート構造学Ⅱ	必修	2	本科4	A 建築構造に関する科目
	地盤工学Ⅱ	必修	2	本科4	A 建築構造に関する科目
	環境工学Ⅰ	必修	2	本科4	A 建築環境工学に関する科目
	建築史	必修	2	本科4	A 建築史・意匠に関する科目
	建設設計製図Ⅰ	必修	2	本科4	B 建築設計・製図に関する科目
	建築計画Ⅱ	必修	2	本科4	A 建築計画に関する科目
	建築論	必修	2	本科4	A 建築史・意匠に関する科目
	建築構造Ⅰ	必修	1	本科4	A 建築構法・材料・施工に関する科目
	建築施工	必修	2	本科4	A 建築構法・材料・施工に関する科目
	建築環境Ⅰ	必修	1	本科4	A 建築環境工学に関する科目
	建築環境Ⅱ	必修	1	本科4	A 建築環境工学に関する科目
	建築デザイン	必修	2	本科4	B 建築設計・製図に関する科目
	鋼構造学	必修	2	本科5	A 建築構造に関する科目
	応用測量Ⅰ	必修	1	本科5	A 建築構法・材料・施工に関する科目
	応用測量Ⅱ	必修	1	本科5	A 建築構法・材料・施工に関する科目
	建設設計製図Ⅱ	必修	2	本科5	B 建築設計・製図に関する科目
	卒業研究・卒業設計	必修	10	本科5	B 建築学に関する実験・実習科目
	建築構造Ⅱ	必修	1	本科5	A 建築構造に関する科目
	建築設備Ⅰ	必修	1	本科5	A 建築環境工学に関する科目
	建築設備Ⅱ	必修	1	本科5	A 建築環境工学に関する科目
	建築法規	必修	1	本科5	A 建築計画に関する科目
	応用構造力学	選択	1	本科5	A 建築構造に関する科目
	建設設計製図Ⅲ	選択	2	本科5	B 建築設計・製図に関する科目
	耐震工学	選択	2	本科5	A 建築構造に関する科目
	地盤防災工学	選択	1	本科5	A 建築構造に関する科目
関連科目	特別研究基礎	必修	8	専1	B 建築学に関する実験・実習科目
	特別実験	必修	2	専1	B 建築学に関する実験・実習科目
	構造力学特論	必修	2	専1	A 建築構造に関する科目
	まちづくり学	選択	2	専1	A 都市計画に関する科目
	耐震工学特論	選択	2	専1	A 建築構造に関する科目
	建設材料特論	選択	2	専1	A 建築構法・材料・施工に関する科目
	建築環境工学特論	選択	2	専2	A 建築環境工学に関する科目
	空間デザイン論	選択	2	専2	A 建築計画に関する科目
	設計演習	選択	2	専1	B 建築設計・製図に関する科目
	応用数学Ⅰ A	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学Ⅰ B	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学Ⅱ A	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	応用数学Ⅱ B	必修	1	本科4	関連 工学の基礎となる科目
	インターンシップ	選択	1	本科4・5	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	インターンシップ	選択	2	本科4・5	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	情報処理	必修	1	本科5	関連 工学の基礎となる科目
	特別演習	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	応用解析Ⅰ	必修	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
	応用解析Ⅱ	必修	2	専1	関連 工学の基礎となる科目
	技術者倫理	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	環境工学特論	必修	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	ネットワークシステム論	選択	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	画像工学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	先端材料工学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	エネルギー工学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	システム設計学	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	流体工学特論	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	エンジニアリング・デザイン演習	必修	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	メンテナンス工学	選択	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	地盤工学特論	選択	2	専2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	水理学特論	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	土木数値解析	選択	2	専1	関連 工学及び周辺技術等に関する科目
	インターンシップ	選択	2	専1・2	関連 工学及び周辺技術等に関する科目

科目区分	科 目 名	必・選	単位数	履修年次	摘 要
学修総まとめ科目	特別研究	必修	10	専2	B 建築学に関する実験・実習科目
専攻外科目	保健体育Ⅳ	選択	2	本科4	専攻外科目
	総合英語Ⅳ A	必修	2	本科4	専攻外科目
	総合英語Ⅳ B	必修	2	本科4	専攻外科目
	現代社会	必修	2	本科4	専攻外科目
	哲学	必修	2	本科4	専攻外科目
	法学	必修	2	本科4	専攻外科目
	日本語 C	留学生必修	2	本科4	専攻外科目
	日本語 D	留学生必修	2	本科4	専攻外科目
	物理Ⅲ	必修	2	本科4	専攻外科目
	日本語 E	留学生必修	2	本科5	専攻外科目
	日本語 F	留学生必修	2	本科5	専攻外科目
	保健体育 V	選択	2	本科5	専攻外科目
	総合英語 V	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅰ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅱ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅲ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅳ A	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅰ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅱ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅲ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	人文特論Ⅳ B	選択	2	本科5	専攻外科目
	英語演習Ⅰ	必修	1	専1	専攻外科目
	英語演習Ⅱ	必修	1	専1	専攻外科目
	日本文化論	選択	2	専2	専攻外科目
	科学と社会	選択	2	専2	専攻外科目
	近代物理学	選択	2	専1	専攻外科目